

高知県立美術館
事業評価プロジェクト
報告書

2003年3月
同志社大学 河島伸子

目次

はじめに

序章 本評価プロジェクトの目的と手法	1
1. 美術館の評価 目的と手法	1
2. 本評価プロジェクトの概要	2
(1) プロジェクトの性質	2
(2) 調査手法	4
第1章 研究開発	11
1. 作品の収集・保存	11
2. 調査・研究	13
(1) 学芸関係	13
(2) ホール企画関係	14
第2章 一般来館者サービス	16
1. 展覧会	16
(1) 専門家による評価	16
(2) 来館者の意見	17
2. ホール事業	21
3. 施設・設備	24
4. 職員の対応	26
5. 美術館の運営	27
(1) 集客	27
(2) 教育普及活動	29
(3) 市民の参加	31
(4) 美術館における創造活動	32
第3章 来館者の生活への影響	34
(1) 来館者にとっての美術館	34
(2) 個々の生活への影響	36
第4章 一般市民、地域社会にとっての美術館	38
終章 今後の課題と展望	41
(1) ミッションの明確化と戦略的経営計画	41
(2) 戦略的マーケティングの導入	43
(3) プログラムの多面的展開	45
(4) 市民の参加とネットワーク化	45
(5) 文化施設から「文化的触媒」へ	46
巻末資料 一般来館者アンケート調査詳細	47

はじめに

この報告書は、(財)高知県文化財団から受けた委託研究として行った「高知県立美術館事業評価プロジェクト」の成果をとりまとめたものである。

高知県立美術館は、1993年に設立されて以来、数多くの展覧会及び美術館ホールにおいて数多くの舞台芸術活動と映画上映会を企画・運営し、全国的にも注目を集めてきた。今後改善すべきところを見出し、一層の発展につなげていくために、これまでの活動を幅広く点検する必要がある、今回の事業評価が行われることとなった。

序章で述べるように「評価」は、誰が、どのような目的で、誰に向けてどのような手法で行うか、ということにより、一つずつ全く異なるものとなり、定式というものがない。したがって文化行政・文化団体運営の現場においては、特に何もなされないか、入館者数が一人歩きする、という事態に陥りがちである。美術館が本来多様な活動を展開しており、入館者数だけでは測れない貴重な価値を社会にもたらすことは、外部からはなかなか理解されにくい。そこで、この研究調査では、特に美術館の活動の中で「数値化しにくいもの」と「一般の目にはふれにくい重要な活動領域」に配慮しつつ、美術館活動の全体像をとらえようとした。

筆者には美術館・博物館の運営に関する研究実績があるが、学術的研究を行うことと、実際に当館のように多彩な活動分野を持つ文化施設を実務の視点にたち評価することには違いがあり、戸惑うこともいろいろとあった。今回の評価手法では不完全なところもあるかと思うが、今後、当館の更なる発展にとって、この報告が何らかの役に立つことを願うものである。

最後に、今回、このような貴重な研究調査の機会を与えてくれた財団法人高知県文化財団に感謝したい。調査にあたっては、館長をはじめ財団及び美術館職員の方々、カルチャー・サポーターの方々の多くの協力を得ることができた。またアンケート調査、グループ・インタビューに協力してくれた一般来館者の方々、インタビューに応じてくれた専門家の方々、データ処理・グラフ作成を手伝ってくれた照屋真弓・奥山尚子さんにもこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。

2003年3月
同志社大学 河島伸子

序章 本評価プロジェクトの目的と手法

1. 美術館の評価 目的と手法

昨今、公共政策や具体的施策を評価する動きが進んでおり、美術館などの文化事業についても評価の考え方・手法を開発しようという方向にある。特に近年独立行政法人化した元国立博物館・美術館においては、中期的目標の明確化とそれにそった形での評価が導入されたところである。公立の文化施設においても、事業評価への関心は高まっている。

しかしながら、実際には、文化行政・文化事業に関する評価の考え方・手法とも特に確立したものがあるわけではない。これには、活動目標・成果を数値化して表現することが難しい、また効果の見えるまでに長期間が必要である、といった理由がある。そもそも、多くの団体において、評価の基本をなすべき「団体のミッション=使命」、基本理念や中長期的・短期的事業目標などが曖昧である、という根本的理由もある。

特に博物館・美術館においては、事業評価に関する書籍などもいくつか出始めたところではあるが¹、どちらかといえば評価に関する視点・アプローチを模索するための議論を提供するものであり、特定の手法が提示されているわけではない。博物館・美術館に関して評価が特に難しいことについては、事業自体の性質によるところも大きい。まず文化施設としての基本的な部分である、例えば建物のつくり、照明、展示解説のわかりやすさ、トイレやショップ、レストランなどの設備の質などは、利用者サービスの視点からは重要な部分であり、これらは比較的、評価がしやすいものであろう²。しかしながら、博物館・美術館の本質的な機能である、作品の収集・保存、展示、教育普及、調査・研究といった活動は多岐にわたり、そのどれもが高度に専門的であり、一定のフォーマットにあてはめ客観的に評価することが難しいタイプの事業である。さらに最近では当館のように、ホールを併設し、そこで演劇や音楽などの舞台芸術活動を展開する館、あるいはアーティストを一定期間 滞在 させる仕組み（アーティスト・イン・レジデンス）などを持つ館が増えつつあり、美術館の機能は拡大する傾向にある。このように、博物館・美術館の基本的機能面及び設備・

¹ 例えば村井良子編著『入門ミュージアムの評価と改善』、ミュゼ、2002年、村山皓編『施策としての博物館の実践的評価』雄山閣、2002年。

² 例えば美術館・博物館における顧客満足度を調査したビュー・コミュニケーションズの一連の報告書がある（各美術館のデータなどは非公開である）。

サービス面からの評価軸をあげていくと、チェック項目は数十から 100 にもわたるものとなりうるのである。

現在までのところ文化行政や文化団体の運営担当者の間では「評価」という言葉が盛んに使われるようになってきているが、そもそも、ここにはいくつもの異なる種類のものが含まれていることにも注意したい。東京都江戸東京博物館の学芸員佐々木秀彦は、「評価」という言葉を使うことを一旦やめて、その中身を次のように分類して考えようと提起している³。この分類には、一定の基準による審査、設置者による点検、博物館自身による点検、改善・開発を前提にした検証、専門家による質の批評、利用者によるチェック、があげられている。実は、ととの間やととが並立するタイプの評価もあり得るので、必ずしもからが違ったタイプを示したものとは言えないが、「誰が」「何のために」「何を」評価するか、という観点からこれらを導いていることは興味深い。

2. 本評価プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの性質

そこで次に、本評価プロジェクトがどのような性質のものであるか、「誰が」「何のために」「何を」評価するか、という前述の観点を採用して説明する。まず評価を行うのは、美術館ではなく第三者である筆者であり、文化政策及びアーツ・マネジメントという筆者の専門の範囲でこのプロジェクトは行われた。第1章で扱う収集や研究・調査のように高度に専門的な業務については、厳密には同じ仕事につく者でなければ評価できず⁴、本来は自己点検したものを同業者が他の館の成果と比較しつつ評価する、という方法が望ましい。今回は、比較できるような評価結果が豊富にあるわけではない現状等も考慮し、本章の(2)で述べるように、情報の整理ということにとどめた。

ここでさらに重要なのは「誰の基準、観点を採用して」評価するか、ということである。あらかじめ美術館が用意している一定の基準に沿って単にチェックのみを外部の第三者が行うというものではなく、基準自体も、美術館の意見を

³ 佐々木秀彦「博物館評価をめぐる状況」村井良子編著『入門ミュージアムの評価と改善』, ミュゼ, 2002年。

⁴ このような同業者による評価をPeer Reviewと呼ぶ。欧米の文化行政や助成申請などに広く使われている。

採り入れながら、基本的には筆者が用意した。この基準については次に詳述する。次に「何のために」評価を行うか、ということは、美術館側の意向として、この9年間の活動を振り返り、まとめを行うため、さらにその中で、今後の活動の改善・発展のための案を得るというものである。

「何を、どのような基準から」評価するか、ということについては詳しく述べる必要がある。元々の事業目標が明確であり、特に数値化されているような場合には、9年後にそれがどの程度達成されているか、照らし合わせればよいのであるが、今回はそのようなものがほとんどない状態で「評価」を行うこととなった。英語でのエバリュエーション (evaluation) という言葉はそのような照合作業に近いイメージのものであるが、今回はどちらかといえばこれまでの総決算と今後の課題の指摘が主な作業となり、これはレビュー (review) すなわち「批評」「回顧」といった言葉のイメージに近いものとなった。したがって今回は、100点の理想像を基準に現状を点検する評価ではなく、ゼロを基点としてプラス方向に積み上げていく方式で、美術館は何を成し遂げて来たのか、どのような価値を地域社会にもたらしたのか、ということを探り出すタイプのものとなった。

「何を」評価するのか、ということについては、先に述べたように美術館の基本的機能は多岐に及び、しかも当館においてはホール部門においてもかなり活発な事業展開がある。行政内では、美術館や劇場など文化施設の評価というと、来館者数や入場者数で測定しようという単純な図式が横行するきらいがある。そこで本調査では、一般利用者には直接的には関係しないが、展示や公演の基礎を築く部分にも配慮した。また、この二つの部分が、公的な資金や人材の投入というインプットがあったことにより直接的に生み出されるアウトプットであるとすれば、その結果起こる副次的効果、長期的な影響としてのアウトカムにも注目したい。それはこの場合、美術館が展示や公演を行うことにより、来館者に対してどのような影響を与えてきたか、そしてさらには非来館者を含めた一般社会、地域への影響と貢献はどのようなものと考えられるか、という二点である。そこで、当館における美術館部門とホール事業部門とを一つにくくり、次の四つに分けて考えることとした。報告書の構成も、この順番で第1章から第4章となっている。

一般来館者には見えにくい、館の活動を支える基礎的な部分
来館者に直接関わる展覧会、公演などのサービス
来館者の芸術鑑賞行動や日常生活に対する影響

非来館者を含めた地域社会一般への影響・貢献

第一のいわば裏方にあたる部分には美術作品の収集・保存と学芸員による調査・研究、そしてホールにおける事業展開に必要な調査、企画開発が含まれる。第二の部分には、展覧会やホールでの公演・上映などの文化事業、教育普及事業などが入る。ここではいわば館のソフトウェアにあたるものの質（例えば上演演目の質）が重要であることはもちろんであるが、館としてのハードウェアやショップなどの付帯設備の充実度も、来館体験に大きな影響を与える要因として、含まれる。

もっとも、時間・予算・筆者の専門性とも限られた中での調査であり、これらの全てを網羅的に調査・分析していくことは不可能であった。また美術館自身が自己点検として行える項目については、あえて第三者が行わなくともよい。むしろ今回は来館者に直接関わる部分、それもソフトウェア的部分の質的評価に重点をおくべきだと思われた。そこで各項目につき、次項に述べるような、それぞれ違った調査手法を併用して評価を行い、それをとりまとめることとした。

（２）調査手法

【第１章 研究開発】

一般来館者の目にふれにくい基礎部分については、どちらかと言えば自己評価できるものであるため、特に独自の調査は行わず、情報の整理という程度にとどめた。収集・保存については、これまでの年報を簡単にまとめた。調査・研究については、展覧会の企画やホール事業の企画に伴う当然の仕事であるため、美術館の「成果」としてあらためて取り上げられることは少ない。展覧会そのものをある種の研究成果としてみることができるため、それは当然のことかもしれない。しかし、学芸員は新聞など美術館外部においても展覧会の紹介を行ったり論稿を寄せたりしており、それも研究活動の成果として重要な意味を持つ。そこで今回は、学芸員が新聞などに発表した展覧会についての論評、外部での講演などをまとめてもらい、美術館が調査・研究機能を通じてアート界及び一般市民に対してどのような貢献をしてきたかを報告する。

【第２章 一般来館者サービス、第３章 来館者への影響】

一般来館者へのサービス及び来館者への影響という部分は、新たに調査を行わないとわかりにくく、外部からの評価が特に必要な部分であるため、これらに

本プロジェクトの力点をおいた。第2章では展覧会・公演内容というソフトウェアと、施設・設備などのハードウェアの両面について、利用者の満足度を測ることとした。測定には二つの手法を採用した。一つは来館者へのアンケート調査である。2002年度実施のホール主催公演から音楽、演劇・舞踊、映画の三部門の公演を一つずつ選び、当日会場でプログラムとともにアンケート用紙と筆記具を配布し、その場で記入し会場に備え付けの箱に入れてもらう方式をとった。また同様に2002年度開催の展覧会「スーラと新印象派 輝ける点描の画家たち」(以下「スーラ展」)、「山本容子の美術遊園地」(以下「山本容子展」)においてアンケート用紙を配布し、館内に机・椅子と筆記具、投函箱を用意し、その場で記入してもらった。通常当館で配布しているアンケート調査とは異なるものという印象があったのか、また机・椅子があり書きやすかったのか、回収率がよく、目標の1,000通近くなった、各展調査実施後の15日目の時点で配布を停止した。調査の概要は以下のとおりである。アンケート票及び調査結果は巻末に添付してある。演目により若干の表現の違いはあるが、基本的にはホール関係では同一の質問票、展覧会関係では別の同一質問票を用意した。質問項目の大部分は、ホール関係と展覧会関係とで共通するものである。

	企画名	アンケート実施日	配布	回収	回収率(%)
ホール関係	アルディッティ	2002年6月9日	189	93	49.2
	カポエイラ	2002年7月6日	386	173	44.8
	映画上映会	2002年8月17、18日	278	134	62.2
ホール計			853	400	46.9
展覧会関係	スーラ展	2002年6月21日～7月7日 (6/24, 7/2を除く)	2610	559	21.4
	山本容子展	2002年7月21日～8月8日 (7/22, 7/29, 8/5, 8/6を除く)	2850	375	13.2
展覧会計			5460	934	17.1
総計			6313	1334	21.1

【アンケート調査における調査項目】

- 高知県立美術館の利用状況、他の館やホールにおける展覧会・公演への参加頻度
- 演目、展覧会内容、職員対応、ホールや建物、設備、レストランなど付帯施設への満足度
- 美術館への評価
- 来館による芸術への関心の変化
- 今回の公演・展覧会の満足度
- 情報収集手段
- 今後の意向・希望

さらにアンケート調査では把握できない質的情報を得るために、「グループ・インタビュー」と呼ばれるものを1回あたり約1時間、5日間にわたり合計10グループに対して当館内の創作室で行った。グループ・インタビューとは、例えば新製品の開発をする際に試供品を使ったユーザーを数名集めて、インタビュアーがそれについての感想・今後の希望などを聞き出していくという方式であり、商業的なマーケティングの世界では定着した方法である。通常は一定基準で同じようなタイプの人々（例えば30代女性のヘビーユーザー）を集める。この手法の利点は、与えられた選択肢から選び記入するアンケート調査とは異なり、より多様な意見や情報が得られることである。数人のディスカッションの中から各自が一人では思いつかなかった答えが時には出るという効果も期待できる。もっともこの実施にあたっては、「グループ」をどのような基準で形成するか、さらにそのメンバーをどのように集めるのか、という問題が発生する。

今回は、来館者アンケート調査の最後にグループ・インタビューへの協力を依頼する可能性があることを述べ、その上で氏名と連絡先を記入してくれた人々の中から、年齢・職業・来館経験などのバランスを考慮しながら電話で連絡をとっていった。またこれ以外にも、美術館友の会会員など、違ったカテゴリーのグループもいくつかつくった。謝礼として美術館オリジナルのテレフォン・カードや招待券を出したが、これらがあらかじめ明示されていたわけではなく「協力してもらおう」ということで指定の日時に来館を願った。このような手法をとったため、美術館をよく知る人、美術館に好意的な人、美術館について語ることがある人にどうしても偏ることが予想された。そこで、そうではないタイプの人々のグループも、美術館職員の知り合いなどを通じて人を探し、1つつくった。しかし美術館に全く興味のない人、美術館を積極的に嫌っている人などを見つけ、インタビュー調査への協力依頼をすることには大きな困難が伴

うため、今回の調査は「美術館に対して基本的には好意的な人々」への聞き取りを中心とした。

【グループ構成】

アルディッティ弦楽四重奏団コンサート鑑賞者より 8 名
カポエイラ公演鑑賞者より 5 名
キンダーフィルムフェスティバル上映会鑑賞者・上映会関連声優体験ワークショップ参加者の保護者より 9 名
スーラ展鑑賞者より 4 名
山本容子展鑑賞者より 5 名
美術館年間観覧券を二年間連続して購入した人々より 5 名
美術館友の会運営委員より 6 名
職員の知り合いなどより美術館高頻度利用者を 5 名
カルチャーサポーターより 5 名
美術館の近隣居住者であり、来館経験がこれまで 1, 2 回程度しかない人々より 6 名

グループ・インタビューにおける調査項目は、グループにより、また会話の流れにより若干異なるが、主に次のような点につき筆者が質問し、参加者による会話を誘発した。インタビュー参加者との連絡にはカルチャー・サポーター 2 名、記録には高知県文化財団職員 1 名があたった。

【グループ・インタビューにおける質問項目】

- 美術館との付き合い方・美術館との関係
- 他の美術館との比較
- 美術館ができたことによる生活への影響
- 周囲の人々に美術館はどのように思われているか
- 美術館は高知県の誇りとなっているか
- 今後美術館に望むこと

さらに展覧会・公演内容というソフトウェアの質については、各界の専門家計 12 名に対するインタビュー調査も行った。本章末尾のリストにあるように、当館に数年以上にわたり関係し、展覧会や公演を見てきた経験を持ち、その内容、美術館のマネジメントに関する専門的知識を持つ人々に対して、一人あたり 1 ~ 2 時間にわたり、筆者が対面インタビューを行った。インタビューに先立ち 1993 ~ 2000 年までのホール事業内容をまとめたカラー版報告書「高知県立美術

館ホール INDEX」及び本年度の広報リーフレット INFORMATION などをお送りし、目をお送りしていただいた。あるいはこれまでの展覧会リストなどをその場で見てもらった。質問内容は、当館の活動をどのように評価するか、今後はどのような課題があると思うか、という二点を中心とした。また、県知事をはじめ、県庁内部で文化行政に携わる（あるいは館の設立時に関わった）職員 3 名に対しても同様の質問をし、美術館運営に関する文化行政の考え方・背景の理解につとめた。

なおインタビュー対象者によっては、美術館の運営について意見を述べるものが多かったため、本報告書にはその内容も含めた。しかし、ここでいう「運営」とはあくまで展覧会や公演などの文化的活動とその普及・地域社会との関係に関するものであり、財政面・組織面などの運営体制そのものの評価は、今回は行わなかった。また展覧会・公演とも、あくまで美術館が主催するものに限っており、県民ギャラリー、貸しホールについての評価は含まない。広い意味での教育普及事業に入る講座、移動美術館、ハイビジョンシアター、アートライブラリーなどについては、若干アンケート調査でふれた以外には特に取り上げていない。しかし、教育普及活動の重要性が専門家インタビュー、グループ・インタビューにおいて多く言及されたため、この分野は今後の課題として取り上げた。

第 3 章は、上述のアンケート調査の一部を利用するとともに、主にグループ・インタビューより得られた情報を分析した。

【第 4 章 地域社会への影響、貢献】

地域社会への影響、貢献度というアウトカムを測ることは評価において最も難しい部分である。これを数値的に測定するには、「美術館の存在の認知率」「地域社会における美術館のイメージ」などをきくアンケート調査、あるいは環境経済学や文化経済学で定着している評価手法（仮想評価法、CVM=Contingency Valuation Method と呼ばれるものなど）を利用することが可能である。しかし、これらは一般住民からランダム・サンプリングした標本を使う大規模なアンケート調査を必要とする。時間と費用の制約上、今回、これは行えなかった。そこで「美術館に既に興味を示している人々」が主な対象者となっている来館者アンケート調査及びグループ・インタビューの中で、美術館が地域社会にとってどのような意義を持っていると考えているか、尋ねることとした。

また 1993 年度から 2000 年度までの「高知県立美術館年報」、「平成 14 年度県

立美術館業務内容」という文献資料、及び当館から出されてきた各種資料も全章を通して参考にした。またこれ以外にも、必要に応じ館より情報提供を願い、できる限り2002年度末までの活動全般を含めて分析した。

報告書は、上記のような調査結果に基づいた分析結果を次のようにまとめている。まず一般来館者からは見えにくい活動の基礎となる保存・収集、調査・研究活動を一種の研究開発機能と考え、「第1章 研究開発」とする。このような活動を一般に対して公開・普及させていく展覧会、ホールでの公演、教育普及活動などについては、「第2章 一般来館者サービス」としてまとめた。美術館の現場では研究開発という用語はあまり使わないものであり、また来館者サービスという言葉で展覧会開催、公演の実施そのものを指すことはあまりないかもしれないが、先に述べたような趣旨で本プロジェクトを設計した関係から、あえて筆者の視点に基づく呼び方を採用させてもらった。「第3章 来館者への影響」では、来館者にとって当館がどのような意味を持つのか、彼らの生活にどのような影響をもたらしたか、を分析する。「第4章 一般市民、地域社会にとっての美術館」では、当館の存在が地域社会にどのような意味を持つかを探る。終章では専門家インタビュー、アンケート調査、グループ・インタビューなどを通じて浮かび上がった今後の課題や方向性を整理した。巻末の「資料編」にはアンケート調査の詳細を載せた。

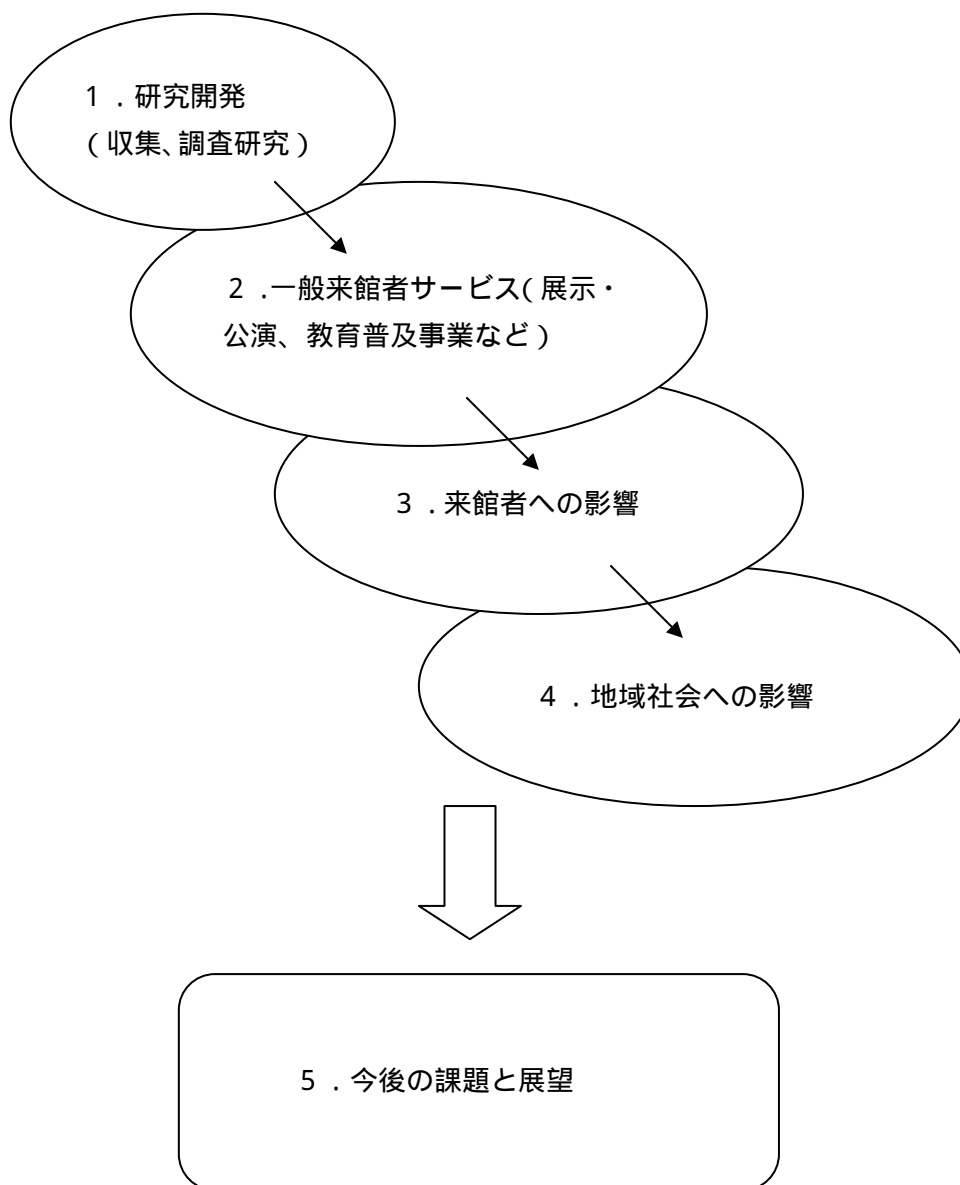
【インタビュー調査協力者一覧(所属・肩書きはインタビュー当時、五十音順)】

市村作知雄(芸術振興協会、山海塾制作)
岩崎ゆう子(国際文化交流推進協会)
梅原真(梅原デザイン事務所)
大野由紀夫(高知新聞編集部)
加藤種男(アサヒビール芸術文化財団事務局長)
熊倉純子(東京芸術大学助教授)
篠雅廣(京都市美術館学芸課長)
徳永高志(松山東雲女子大学助教授)
とちぎあきら(国立近代美術館フィルムセンター)
浜田茂(高知新聞学芸部)
平岡望(星ヶ岡アートヴィレッチ)
Irvine Arditti(音楽家)

また、県、美術館の関係者として：

大石好一（高知県文化環境部文化環境政策課長）
大崎博澄（高知県教育長）
鍵岡正謹（高知県立美術館館長）
橋本大二郎（高知県知事、高知県文化財団理事長）

美術館の機能についての考え方と本報告書の構成



第1章 研究開発

ここでは美術館部門における作品の収集・保存、及び調査・研究、さらにホール運営に関わる企画についてみていく。

1. 作品の収集・保存

美術館にとって、もっとも基本的かつ重要であると言ってよい事業は、作品及びそれに関係する文献などの資料（合わせて、以下「資料」）の収集及びその整理・保管である。収集の方針については、高知県立美術館を紹介する簡単な14ページのカラー版リーフレットに、以下のような記述が見られる。

(1) 対象

- A. 県民の感性に訴え、情感を高める優れた美術作品
- B. 県出身の作家の作品及び県に縁のある優れた作品
- C. その他収蔵作品としてふさわしい美術作品及び補助資料

(2) 種類

絵画・彫刻・工芸等の美術作品及び美術資料とし、主として近代以降のものとする。

ちなみに、これとは別に「平成14年度県立美術館業務概要書」という文書においては、収蔵作品は「南の人と自然」というテーマに基づき収集されたことが記されている。これはリーフレットにおける収集方針と矛盾するものではないが、どの時点から「南の人と自然」という表現が取り入れられたかは、年報を見る限りでは明らかではない。「南の人と自然」は漠然とした表現であり¹、業務概要書に書かれているものの方が方針として、まだある種の明確さを持つように思われる。

いずれにせよ2002年度（平成14年度）の時点で、開館準備期間から通じて油彩画、日本画、版画など合計4,000点以上が収集された。特にマルク・シャガールの大型油彩画作品は、当館のいわば目玉商品であることもあり、開館初年度に寄贈された約800点を含む大量の版画作品と合わせ、合計1,300点以上の作品群をなしている。これにより世界有数のシャガール所蔵館としての地位を獲得しており、全国で行われる「マルク・シャガール展」（例えば1999年度のふくやま美術館「シャガール 愛すべき人々の夢 高知県立美術館所蔵展」、

1995年度の北海道立近代美術館「シャガール愛のかたち展」)には大量の作品貸与を行ってきており、全国の美術館界における高知県立美術館の存在感を高めることに貢献してきたものと思われる。実際、来館者に対するグループ・インタビューの中でも、「県外の友人が来た場合には、シャガールの作品がある部屋に連れていき、高知にもこんなすごい作品があるのだということを自慢する」といった発言がいくつか見られた。

シャガールに限らず、収集方針(1)のBにあるように、高知県に縁のある作家作品や現代美術の作品収集も手広く行ってきたようである。収集の具体的点数と作品の種類は、年度によりかなり異なる。これには寄贈の有無、資料収集予算、美術品市場の状況などさまざまな要因が関係したものと思われ、特にその傾向の分析を行うものではない。しかし、結果として国内外のさまざまな時代を代表する作品群、及び土佐の美術の概観がつかめるような作品群が着実に蓄積されてきたことは見てとれる。1970年以降に制作された極めて現代性の高い作品もかなりの数そろっており、テーマ性を持った小さな展覧会を常設展示室の一つを使い開催できるほどであることも興味深い。あるいは土佐の町絵師として芝居の場面を描き独特の作風を持っていた絵金の作品や、近代日本の印象派画壇を代表する一人と言われながら、その作品があまり一般には知られていなかった山脇信徳の作品収集などにも力を入れてきている。特に山脇信徳については、館長自らが個人的な研究対象としてきており、2002年には高知新聞社より著書『山脇信徳 日本のモネと呼ばれた男』を出版した。

なお収集した作品は、本来、その規格、来歴、コンディション等の情報をのせたシステムとともに管理しなければならない。これについては、筆者に専門性がないため、学芸員へのインタビューよりきいたことを簡単に記す。まず作品の所蔵状況は「パーフェクトではない」というものである。整理状況としては、約8分の1の資料には整理番号がついていない。現在電子化された作品管理システムと手書きの作品台帳の二本立てで情報管理を行っているが、電子データベースについては、ほとんどの資料を含むものの、それぞれのデータが不完全なままである。台帳には作品の写真が貼り付けられていることもあり、画像も含めたデータベースの整備は今後の課題である。

2. 調査・研究

(1) 学芸関係

本プロジェクトでは美術館館長及び学芸員5名の調査・研究活動の成果として、作家、作品に関する新聞等における記事執筆、美術館外部における講演、テレビなどメディアへの出演、大学などでの非常勤講師などの活動状況を各学芸員にまとめてもらった。その結果をここで報告する。各自が担当した企画展のカタログへの執筆や企画展に伴う美術館内での講演については省略した。

まず当館においては、館長自ら、多岐にわたる活躍をしてきた。前職においては20世紀美術を専門とする学芸員であり、所属館が前衛的なパフォーマンス、映画、文学なども扱う企業文化部に位置していた関係から、現代アートの最前線に詳しいことは当然かもしれないが、当館に就任後は土佐の作家による美術に関する研究も行ってきた。例えば絵金、山脇信徳に関する数々の論稿、『高知県立美術館ニュース』における「土佐美術史外伝」連載がその成果である。また高知の現代若手作家事情にも詳しく、VOCA展(The Vision of Contemporary Art, 平面美術における若手作家の登竜門としての展覧会と顕彰事業、1994年創設、上野の森美術館・VOCA展実行委員会共催、第一生命保険協賛)における推薦委員・審査委員などを務め、高知の優秀な作家を発掘し全国レベルの現代美術界に紹介してきた。

他の5名の学芸員も、展覧会に関係したカタログ執筆以外に、高知新聞他、朝日・毎日・読売新聞など主要各紙に原稿を発表している。掲載数は非常に多く、5名合わせて、年平均30本程度、多い年(1994、1995年)には50本以上にものぼる。またNHK松山放送局の「おはよう四国」、高知放送「おはよう高知」などへの出演も、5名合わせて毎年数回に及ぶ。どちらも限られた字数・時間の中で、一般向けにわかりやすく展覧会あるいは美術館所蔵品を紹介したり、それにまつわるエピソードなどを披露するものであり、美術好きの人々にとっては大きな広報効果があるものと思われる。

「研究」という点からは、一般向けではなく、より専門性の高い論稿を発表していく必要もある。そのため当館では『高知県立美術館研究紀要』を1999年に発刊し、2002年3月までに4集発行した。毎号、各学芸員による担当展覧会に関する内容の濃い論文が2、3本掲載されており、カタログ、新聞等マスコミでの紹介と論評を補完する、重要な研究成果を積み上げている。

また学芸員は大学などでの講演・講義も担当してきた。特に高知県立女子大における博物館実習講義には深く関与している。そもそも当館が設立される以前には、高知県内で学芸員資格をとれる大学がなかったが、館長の働きかけで、高知県立女子大学におけるカリキュラム構築にこぎつけたという経緯がある。当館では1997年度より全国の各大学の学生を、博物館実習生として毎年数名7日間にわたり受け入れてきた。近年は同大学からの学生も数名受け入れている。他にも学芸員たちは、高知県内のさまざまな文化関係の企画委員、シンポジウムにおけるパネリストなどを務め、広い意味での研究活動及び高知の文化活動に貢献を続けている。

(2) ホール企画関係

こちらは特に調査・研究ということが意識される職種ではないが、ホールでの公演の企画・運営を担当する職員2名・非常勤職員1名は、当然、公演に関する情報収集という調査活動を日常的に行っている。一般に公立の文化ホールでは、そもそも公演演目の企画にあたる職員が不在であり、施設の管理運営にあたる職員が、プロモーターなどの持ち込む「パッケージ」を買い、それを自主企画と呼ぶ以外には、貸しホール事業を中心とする、というのが大勢である。当館においては、開館当初から、美術館ホールを最大限活用し、さまざまな芸術活動を創造・発信する拠点づくりが意識されていた。そのため「アート・コーディネーター」という、音楽・演劇・舞踊・映画などの公演事業を専門に担当する職員を当初よりおいている。公演事業だけを行うホールですらできないことを美術館ホールで本格的に行っている点、全国的に高く評価されている。

今回インタビューした専門家の一人も「(高知県立美術館の)ホール担当者たちは、(社)全国公立文化施設協会のリストから演目を選んでいるのではなく、自分達でいろいろと見に行き気に入ったものを企画している。それがとても大切で、こちら(アーティスト側)もやっていて気持ちが良い。また、担当者がよいホールだから、他の公演企画・情報もいろいろと紹介する気になる」と述べていた。

例えば全国の公立文化施設の活性化を目的に事業助成や研修事業を行う財団法人地域創造が発行している季刊誌「地域創造」創刊号には当館(及び高知県の文化行政全般)が詳細に取り上げられている²。その中でもアート・コ

² 「高知県 木と人の文化」『地域創造』vol 1, 24～31 ページ。

ーター（及び、美術館全般について館長）の人脈の豊富さや企画の方法などがケース・スタディとして述べられている。そこでもふれられているが、舞台芸術公演の中でも、当館が重点をおいているような前衛的・先駆的な表現活動は特に客観的評価が難しい（ホールの公演内容への評価は第2部で詳しく述べる）ため、その上演決定が難しい。そこですべきことは、担当職員が自分で公演を見て回ることであるが、それには限界がある。それを補うためには、信頼できる担当者・業界とのネットワークを構築することが有効である。前述の担当者がさまざまな文化団体にアプローチする中、これは自然にできていったものと思われ、ホールとしての信頼度・定評を得た時点から、情報も自然に集まるようになっていく。

しかし、時折ネットワークづくりを意識的に行う必要もある。当館ではこれまで、全国の公立文化施設を対象とするアーツ・マネジメント研修の中でも代表的なものである「ステージ・ラボ」（財団法人地域創造主催）を1999年度に招致しており、県内外の文化事業に関わる主要人物との交流をはかった。また民間レベルでの代表的アーツ・マネジメント研修である「トヨタ・アートマネジメント講座」もこれまで2回（1998年度、2002年度）招致している。これは開催地で実行委員会を組織し、企画を一緒になり考える仕組みであるため、既存のネットワークを強化すると同時に、新たな人脈を開拓する機会ともなったはずである。

これらは第一義的には研修事業であるが、同時に、交流的側面も重要視されており、情報収集のための研究開発に大いに役立ってきた。ちなみに、この二つの研修事業の開催地決定にあたっては、主催地において研修向きの設備が確保できるか、という点が重要視されているが、それにもまして主催地が全国的に見て興味深い活動を行っており、担当者が交流に関して積極的な姿勢を見せているところが選ばれている。すなわち、これらの研修を招致したこと自体、ある種の質と積極性を示すものと見てよい。

第2章 一般来館者サービス

ここでは美術館活動の中で、一般来館者に直接関係する展覧会の開催、ホールにおける公演の開催、教育普及事業などのソフト面における評価と、来館者の体験に関わる館の建物・設備などのハード面における評価をまとめる。これは、専門家インタビュー、アンケート調査、グループ・インタビューの三調査の結果をふまえるものである。

1. 展覧会

当館では開館当初より、収蔵品によるコレクション展を常設展示室2室において、及び企画展を企画展示室2室において平行する形で開催してきた。コレクション展（常設特別展を含む）も収蔵品4,000点あまりの中から入れ替えするため、2室合わせて年間7～8本のテーマにそった展示を開催している。

(1) 専門家による評価

企画展は、自主企画及び他館との共同企画を含め、年間6本程度開催してきた。企画展の方針について明示されたものは特にないが、高知県内唯一の本格的な美術館として、多様な美術領域を紹介していく必要があることより、日本の伝統的な美術・工芸、現代アート、土佐の美術史と今日のアート、一般市民に対して知名度のあるもの、といった分類の組み合わせを続けてきた。すなわち新旧とりまぜ、国内外の芸術、地元の芸術などが年間を通じて一通り見られるようになっている。

さて企画展の中でも特に「知名度のあるもの」という路線は年間6本のうち2～3本を占めるが、これは、「自主」あるいは「共同企画」といっても主催者は別の組織であり、その巡回展であることが多い。本当の自主企画こそが館の力量や個性を発揮できる場であるとはいえ、巡回展への依存は、地方の公立美術館の常であり、これ自体、特に問題だとは言えない。特に高知では、大型美術館が他に県内にないため、人員と予算の制約の中で展覧会に関する多様な需要に応えるためには持ち込み企画に頼らざるを得ない。巡回展の例としては、今年度の「山本容子の美術遊園地」展がある。これは朝日新聞社の主催で、高知を含め全国10ヶ所の美術館などで開催された。当館では、しかし、このような企画に関しては、単にパッケージを持ち込むのではなく、講演会・ワークショップを付加する、あるいは展示の一部に当館の所蔵品を加える、カタログに当

館の学芸員が執筆する、など何らかの参加性を持たせることを基本方針としている。同様に映画上映に関しても、年に何回かは国際文化交流推進協会（エースジャパン）よりパッケージ化された上映作品群を購入している。チラシについても版下までの提供が本来はあるが、それを利用しつつ独自のチラシをつくっている点「他の公共上映団体とは異なる」（エースジャパン）と好意的な評価を得ている。

企画展について専門家からは、「特に地元関係の展示会はよく調べてあり質が高い」と言われているが、「企画の本数が多すぎるのではないか」という声があった。本数を4本ぐらいに減らし、むしろそれに付随したワークショップや鑑賞能力を高めるための教育普及事業を増やして1本の展示会における観客とのコミュニケーションを深化していくべきである、という意見がきかれた。この点については、本章の5で再度ふれる。

（2）来館者の意見

次に来館者に対するアンケート調査及びグループ・インタビューから、美術館の展示会及び公演事業に対する満足度をはかっていく。以下、二つの展示会（スーラ展、山本容子展）の客層を比べると、スーラ展の方が山本容子展よりもこれまでの来館経験がやや多かったが、属性や回答の傾向に大きな差は見られなかったため、二つの展示会回答者をまとめて分析することとする（以下、これらのアンケート調査回答者は「展示会回答者」）。ホール事業3公演（アルディッティ・コンサート、カポエイラ、キンダーフィルムフェスティバル上映会）におけるアンケート調査回答者は、それぞれ客層・意見とも若干異なる傾向を見せているが、それぞれの母数が小さいことを考慮し、やはりまとめて分析する（以下、これらのアンケート調査回答者は「ホール回答者」）。なおホール来館者の約9割はホールのみ利用ではなく展示会も見つた経験がある。特にアルディッティ・コンサート参加者にその傾向が強い。

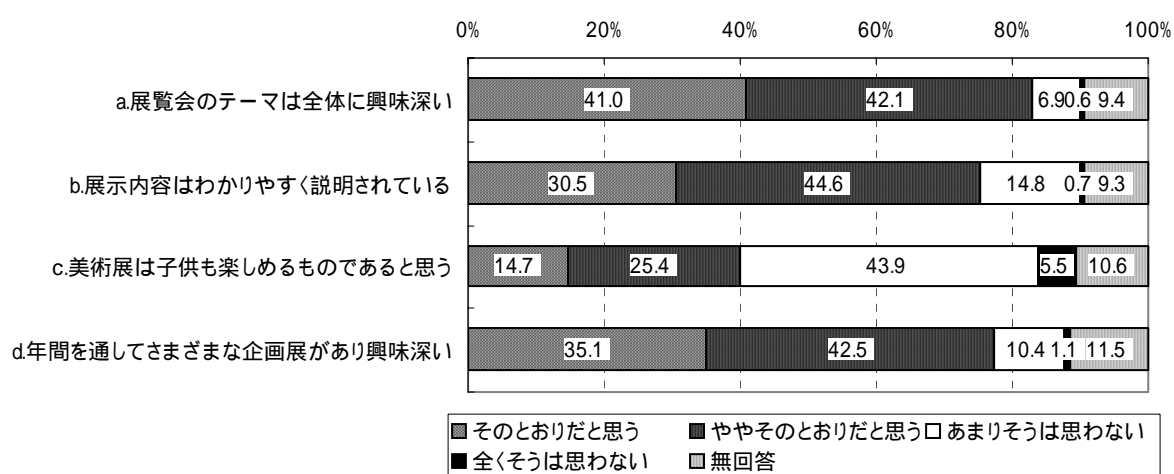
展示会の内容

まず展示会回答者及びホール回答者の展示会に関する満足度を見ていく。次のグラフに見られるように、展示会に関する満足度は全体に非常に高く、「展示会のテーマは全体に興味深い」という文に対して展示会回答者の8割以上が肯定的であった。また8割近くが「年間を通してさまざまな企画展があり興味深い」という文を肯定している。同じ問に対して、ホール回答者においては全体に肯

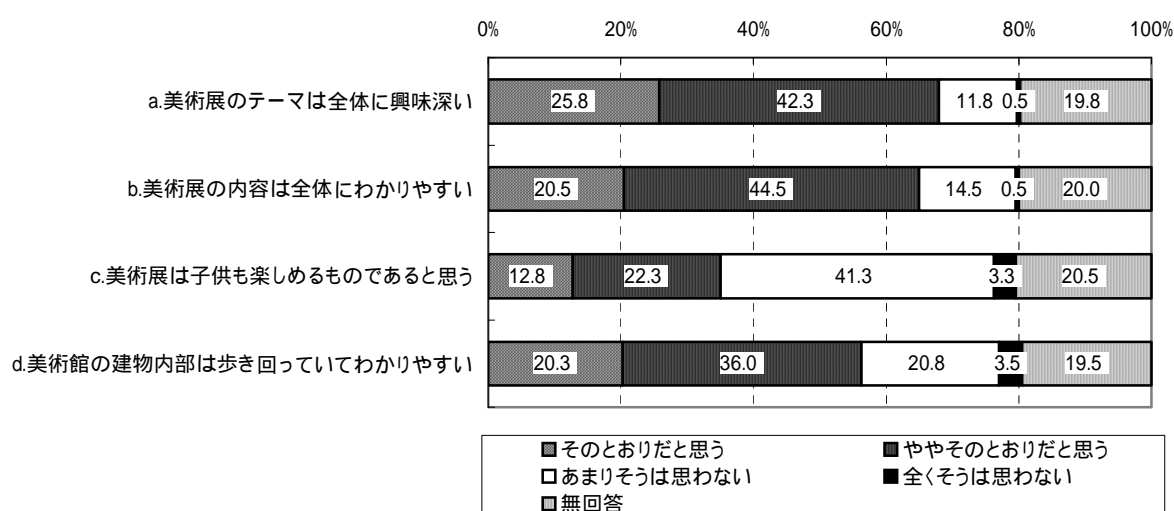
定的態度の割合が低くなるが、展覧会に行ったことがない人々が回答者の10.8%おり、この問に対して無回答であったことを考慮すると、展覧会回答者よりやや低い、という程度になる。また展示内容の説明はわかりやすい、という意見（展覧会回答者の75.2%、ホール回答者の65%）も全体の6～8割を占めた。しかし「展覧会の内容は子供にも楽しめるものであると思う」という文については、否定派が目立つ（展覧会回答者の49.4%、ホール回答者の44.5%）。

【グラフ1・2 展覧会内容への評価】

展覧会回答者による展覧会内容への評価(N=934人)



ホール回答者による展覧会内容への評価(N=400人)



グループ・インタビューにおいては、特にアンケート調査と同じ質問をしな

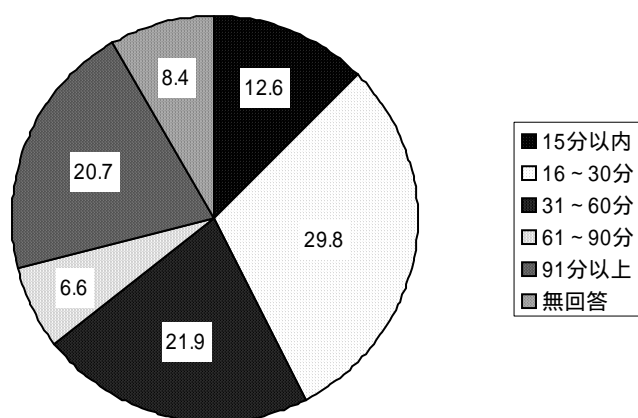
ったが、さまざまな会話の中から、これまで県内にはなかった本格的な美術を見せる場が生まれ「本物」にふれる機会ができたことを喜ぶ声がかかれた。

- 企画は頑張っていると思う。地方にいると本物に出会う機会が少ないので、本物がこの地で見られることに感動した。
- 高知ゆかり（土方久功・石元泰博写真展・映画等）の企画が面白かったので続けて欲しい。

また展覧会・ホール事業の質的評価の直接的指標とは言えないが、来館者が自宅あるいは職場から美術館まで片道どれぐらいの時間をかけて来たか、という質問への回答には興味深い結果が出ている（グラフ3・4）。まず全回答者の4割程度は片道30分以内で来られる近隣在住者、片道1時間までで全回答者の6割程度が入る。しかし一方で片道91分以上かけて来たという人も美術展で2割強、ホール事業で1割弱もいた。県内他都市からのみならず、四国他県や瀬戸内地方からも来ているものと思われる。もちろん高知市内の友人・親戚を訪ねるなど主目的が別にある場合も含まれるが、来館が主目的あるいは唯一の目的である事例も少なくないはずである。わざわざそれだけ時間をかけて来るからには、「他では見られないから」という理由があるはずだが、この美術館でなら期待が裏切られないであろうという一種の信頼感がベースにあるものと思われる。

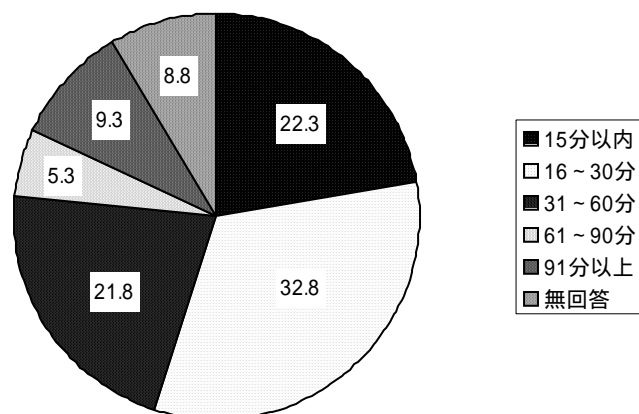
【グラフ3 美術館までの所用時間（展覧会回答者）】

美術館までの所用時間（展覧会回答者 N=934 単位：%）



【グラフ4 美術館までの所用時間（ホール回答者）】

美術館までの所用時間（ホール回答者 N=400 単位：%）



批判的な意見としては、子供連れでは来にくい、子供の姿が見られない、という部分に集中した。専門家の一人も「子供が騒ぐのは当り前のことで、それを取り止めてはいけない。ベビーカーを預かってあげるなどして子供連れの親が気楽に見られるようにしなければ（中略）。誰の税金で運営しているのか（考えるべきである）」と強く述べている。グループ・インタビューの中でも、美術館の近くに住みながらほとんど来館経験がない人々においては、子供連れで行きにくいから、という理由が圧倒的であった。

- 子供と一緒に見られるものがない。美術館は静かに鑑賞しなくてはならないものとの意識がある。子供に気をとられてじっくり鑑賞できない。
- 美術館は子供と来ないところだと思っている。
- 子供が乳母車に乗っていたときに一度来たことがあるが、まわりの目が気になった。年配の方ほど子供の嬌声に敏感なので来づらい。

この点は、「展覧会に子供向きのものがない」という内容面にとどまらず、美術館の運営方法に関する意見につながっていく。これについては、本章5（2）で取り上げる。

また集客が少ないことに関するコメントも時々あり、それは広報不足ではないかというものと、もう少し わかりやすい 企画展を開くべきではないか、というものがあつた。

- 県民の税金の上に成り立っている美術館であることを考えたら、もう少し採算性を考えるべきではないか。人が来ないと赤字だという危機感がない。やっていること自体がお客様の心をつかんでいるのか見直すべき。
- 山本容子さんのようにメジャーなものには(県民の)喰いつきがよくて、マイナーなものには反応が無い。あとは興味のない人に足を向けさせるにはどうするか？
- 一回でもよいから誰でも知っている超有名展覧会をやって欲しい(この美術館のよさを多くの人に知ってもらいたいから)。どんなに高尚でもマイナーすぎるとどうかなと思う。

2. ホール事業の内容

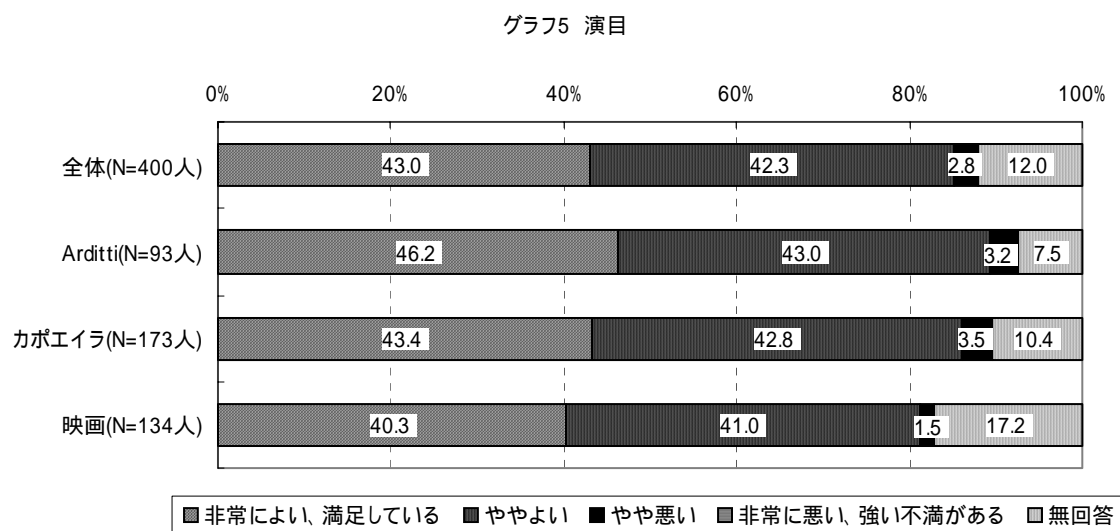
ホールにおける活動については、設立初年度の時点から、その後多角的な活動を展開するための準備が進められた。先に述べたように「アート・コーディネーター」という職種をおき、美術館ホールにおける事業の企画・運営の専門スタッフをおいたこと自体、全国でも稀な例である。ホール企画事業(共同主催、ワークショップを含む)は、1993年度～2001年度までで合計129件あり、述べ53,000名近くの鑑賞・参加があった。ここは399席の中規模ホールであり、評価の定着した交響楽団の演奏会などは県民文化ホールがあるため、実験的な分野や活動の紹介に集中してきた。もっともそれぞれの分野においては、世界一流レベルの公演が目白押しであり続け、国内のホール業界においても開館数年後より頭角を現し注目を集めてきた。専門家の間においても「音楽分野が(相対的に)やや保守的」という声もあったが、「オリジナリティを持とうという努力をきちんとしている」「地域レベルのものを選んでいなくてクオリティは高い」「制作に関わる活動(映画製作の事例など)を行っていることも大きな意味がある」「シリーズ化した企画をかなり継続してやっていることもよい」「ありきたりではない、最先端のものを紹介しようと努力している」などと、全体に非常に高い評価を受けている。もっとも、「最先端の紹介」だけではなく、今後は「高知オリジナルのソフトを制作・発信して欲しい」という声もあった。

第1章で、「ステージ・ラボ」「トヨタ・アートマネジメント講座」の招致にふれたが、それ以上にこのホールの質の高さを示すのは、外部からの助成金獲得状況である。これはかなり豊富であり、ホール部分においては文化庁から2

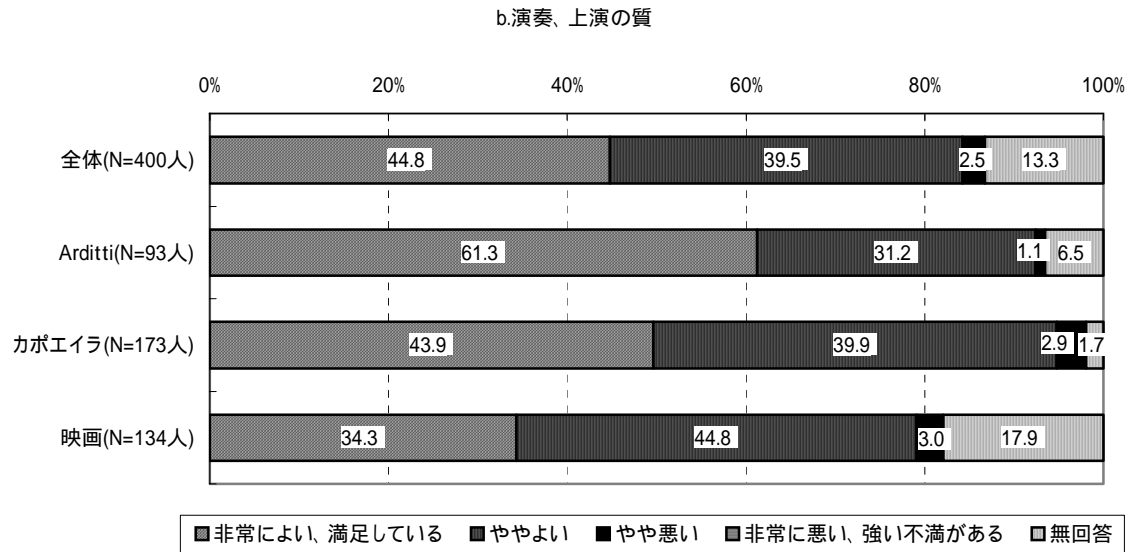
件・計 150 万円、財団法人地域創造から 4 件・計 3,100 万円、芸術文化振興基金から 3 件・計 1,630 万円の助成を受けた経験がある。他に 1998 年よりは、アサヒビール株式会社のメセナ活動として特に用途制限なくホール事業全体の運営に毎年 100 万円、継続的な支援を受けている。なお展覧会関係についても、財団法人地域創造から 3 件・計 1,800 万円、よんでん文化財団より毎年 50～70 万円程度、他に国際交流基金などからの助成を受けてきた。

ホール回答者の中でも、次のグラフ 5・6に見られるように、演目及び演奏・上演の質に関する満足度は非常に高い。さらに高知県立美術館は「芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている」「さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である」「実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である」といった文章に対しても肯定的な回答が大多数であった（グラフ 7）。

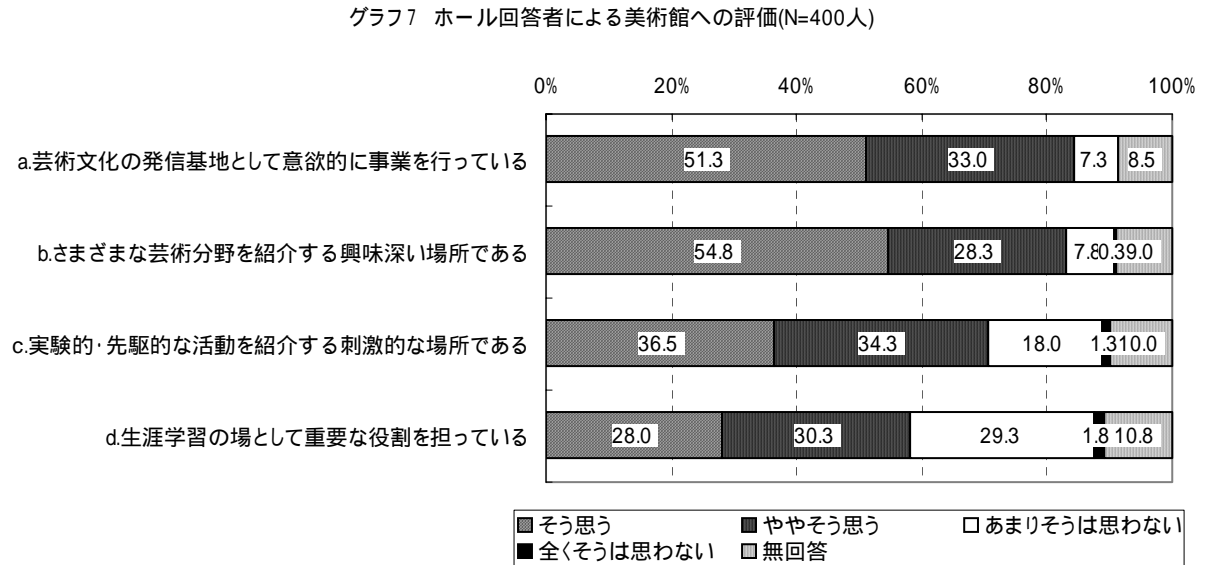
【グラフ 5 演目への満足度（ホール回答者）】



【グラフ6 上演、演奏の質への満足度（ホール回答者）】



【グラフ7 ホール回答者による美術館評価】



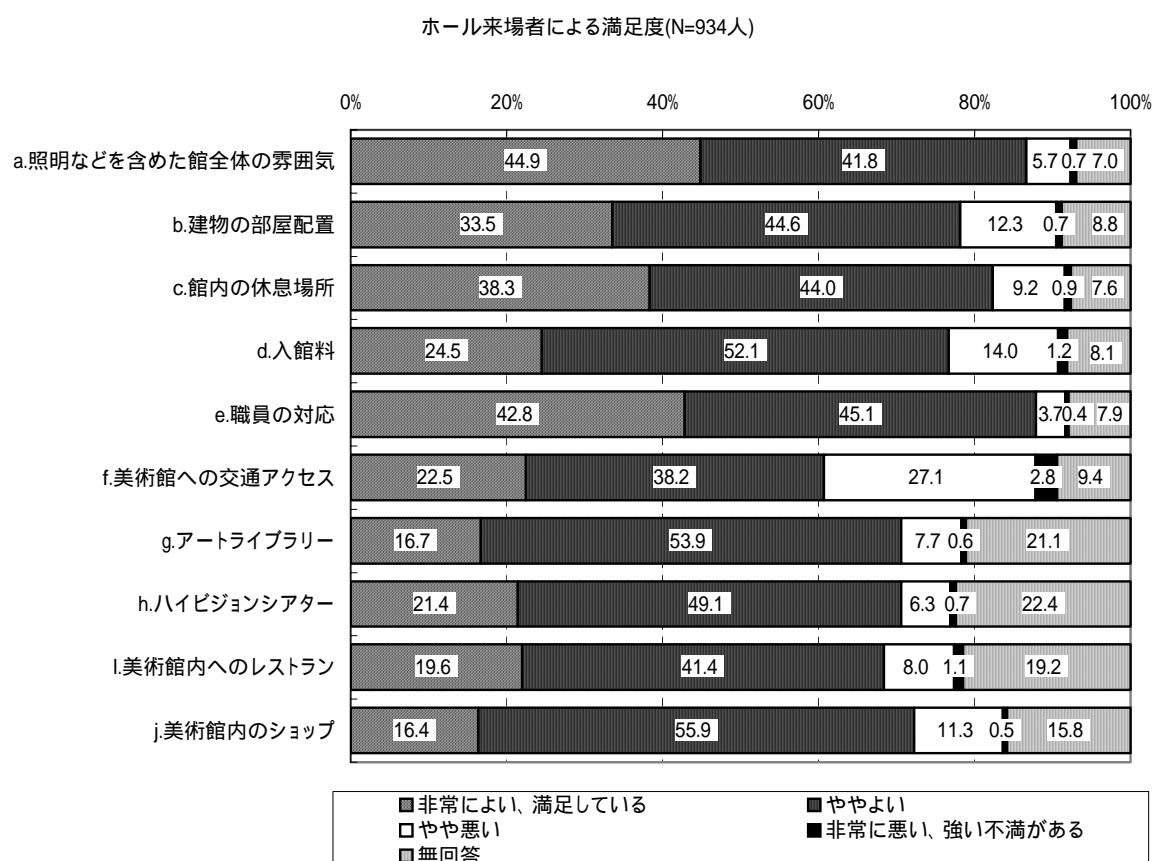
グループ・インタビューにおいては、「他では見られないような映画、公演などをここではやっている」「東京・大阪でも見られなかったものがよく来ている」という意見が聞かれ、個々の強く感銘を受けた公演や作品についての話もよく出た。しかし一方で「内容が高尚な感じがする。もう少し気軽に足を運べる内容はいいのか」といった声もあった。

3. 施設・設備

美術館を訪れる際には、展覧会やホール事業の内容の充実度もさることながら、館の建物そのものや各部屋の配置、照明や音響などのハード面で満足できるかどうか、といったことも来館者にとっては重要な要素である。

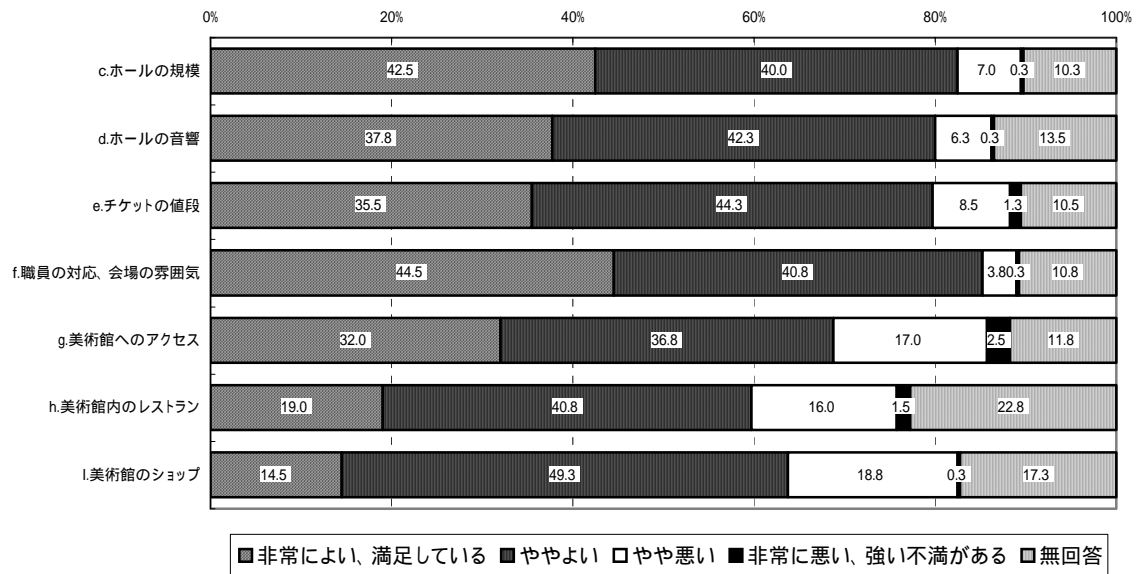
アンケート調査においては、グラフ8・9に見られるように、全体に満足度が高いことが示された。なおレストランについては、このアンケート調査後に委託業者が変更した。

【グラフ8 施設・設備への満足度（展覧会回答者）】



【グラフ9 設備・施設への満足度（ホール回答者、ホール問4）】

ホール回答者による満足度(N=400人)



もっとも、グループ・インタビューにおいては、特に美術館を頻繁に利用する人々ほど、ハード面に関するさまざまな意見を述べていた。

- 絵の前で座って見たいのに、椅子が少ないような気がする。
- スロープがあったらよい。高齢者に優しい建物の構造になって欲しい。
- 説明書を大きな字で書いて欲しい。
- 展示室がわかれていて順序がわかりづらい。
- 床に人の足音が響いて気になる。

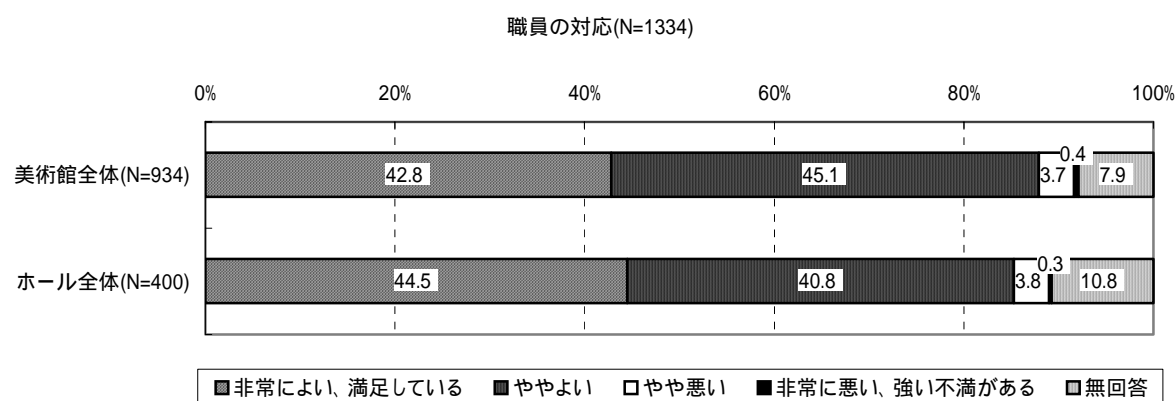
肯定的なものとしては「建物・周辺の景色が好きだ」「水の風景にびっくりした」「光がふんだんに差し込んで気持ちがいい」などの声があった。また交通のアクセスについては、「交通機関をもっと便利にして欲しい」「遠くて来づらい」という声があった。また「観光客にとって来にくい場所なので残念だ」という指摘もあった。一方で、「遠いというイメージがあるが、実は路面電車も便利であり、自動車であれば駐車場は無料なので、本当は来やすい場所である」という意見もあった。各自の居住地、使用する交通機関などがさまざまであり、館の立地そのものは変えられないので、アンケート調査に見られる満足度を、ここではこれ以上分析しない。これについては市内中心部から、考えられているよりも簡単に来られることをアピールすることが最良策であろう。

4. 職員の対応

美術館の受付や館内警備他、来館者が接する職員の対応も、美術館の来館体験に大きく影響するので、これに対する評価を見ていく。

アンケート調査結果においては、グラフ 10 に見られるように、大多数（展覧会回答者の 87.9%、ホール回答者の 85.3%）が職員の対応・会場の雰囲気に関して肯定的な見解を示している。

【グラフ 10 職員の対応への満足度】



しかし、専門家インタビューにおいては、「受付の人はただ座って問い合わせなどを待っているだけである。ホテルのマナーリナーのように、誰が何かきいても即答できるような、サービス業に徹した人を配置すべきだ」「公立の美術館の常として、お客様へのサービス意識に弱い」という意見もあった。もっとも、これらは受付の人が決められた職務をまっとうしてないという意見ではなく、顧客サービスの基本方針そのものの改革を求める声である。具体的には、流行っているホテルやレストランなど、接客のプロフェッショナルがいるところのように、自分から積極的に案内をする 名物マナーリナー を核とした、活気ある美術館づくりを目指すべきではないか、という趣旨であった。

さらに、学芸員がより現場に近いところにいるべきではないか、ということで特に美術館友の会運営委員グループから、強い意見が出されていた。

- 学芸員は黒子ではなく、来られたお客様の間に入って行って、一般人と同じスタンスでものを見る努力をしていくべき。バリアを感じる。
- よその美術館では、館長・学芸員が説明してくれたりすることがある。学芸員は自分が展示したものについて、現場に出て見に来られた方の雰囲気を知るべき。

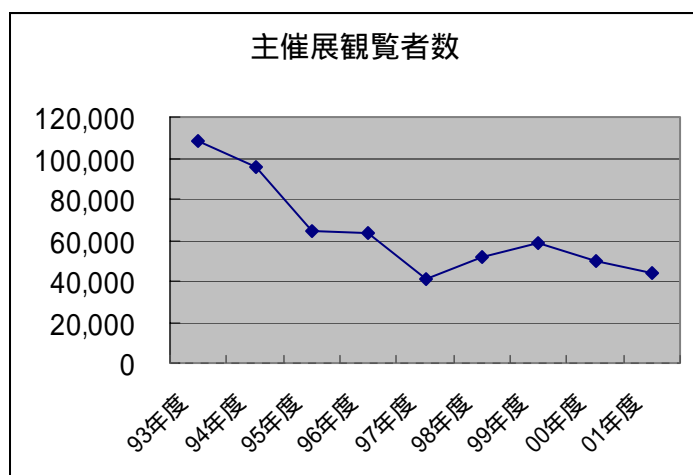
5. 美術館の運営

上記の最後に述べた受付や学芸員のあり方などは、現在までの美術館が定めた、あるいは暗黙のうちにルール化した運営体制をこえた問題である。他にもこのような問題が専門家インタビュー及びグループ・インタビューよりいくつか出されており、それらは「展覧会の内容への満足度」や「施設の充実度」といった項目におさまらないタイプのものであった。以下、本章の最後にはこれらを取り上げていく。

(1) 集客

一般に美術館などが新たに開館すると、最初の年には大型企画があり話題性もあることから、初年度は数多くの来館者が押し寄せる。しかしその後、低減する傾向が見られ、これは当館にもあてはまる(グラフ11)。

【グラフ11 美術館主催展観覧者数の推移】



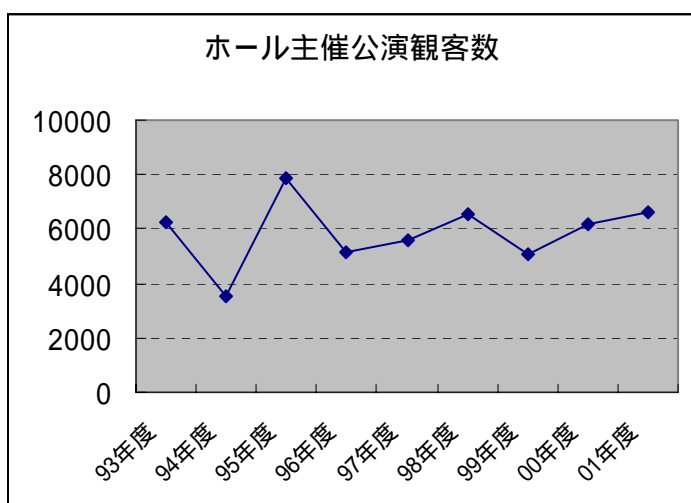
さらに、どの美術館においても、テレビ局や新聞社の主催企画でメディアにおける広報が充実したものであり、美術というよりは文明・歴史的な企画であると、かなりの数の観客が押し寄せるが(例えば当館における貸館事業であった「シカン発掘展」「エジプト展」「ナポレオン展」などは7~11万人集めた)、一方、美術館が主催するもので、特に現代アートを扱ったものや版画・工芸などの比較的地味な種類の展覧会には人が入りにくい(3~5,000人程度)。グループ・インタビュー参加者たちは、これらの展覧会の質的な差を認識しており、美術館側の、集客を目的とした企画ばかりをやりたくないという基本姿勢を理解していた。「学芸員が本当にやりたい企画をぜひして欲しい」という励ましの

声もあった。しかし、いわゆるメジャーな企画展をもう少し活発に行えば、それにより美術館を体験する人が増え、その人々がやがて他の 地味な、しかし良質の 企画展にも来るようになるのではないかと、ということが話題になった。実際、そのような効果があるのかどうかということについては、別の調査が必要なので、ここではこれ以上ふれないが、来館者の間では来館者数が少ないことが強く認識されており、それをもう少し増やすべきではないか、という声が上がっていたことは記しておく。

ホール部分については、事業数が年により異なるため、傾向を論じることは難しいが、概して各公演のチケット売れ行きは好調であったと言える(グラフ 12)。知名度の高い大型公演を行うホールとは一線を画した企画方針であることより、これまでには高知にはなかった珍しい公演、新しいタイプの事業、西日本ではここでしか見られない公演などに対して、芸術文化に興味を持つ人々、好奇心の強い人々が遠方からも食いついてきた。またそのような芸術ファンに限らず、映画が好きで来て見たら、他にもいろいろとやっていることに気づき興味を持った、というようなタイプの人々もグループ・インタビュー参加者に多く見られたことから、割合幅広い客層を集めてきたものと思われる。

しかし、ホール担当者及びホール主催事業の状況に詳しい人々によれば、最近座席の埋まり具合が若干落ち気味である、ということであった。例えば今回の調査に関連したアルディッティ・コンサートは2000年6月に続く二回目の開催であり、前回は256名の来場があり好評を博したにも関わらず、今回は189名と売れ行きが前回比25%以上も落ち、ホールの半分も埋まらなかった。

【グラフ 12 ホール主催公演観客数の推移】



この事例一つをもってホールの人気が落ちているとは到底言えず、ホールの集客状況については、別の調査が必要である。しかし、ホール事業の集客状況が下降気味ではないかと認識している専門家の一人は、次のようにコメントしている。今後のマーケティングのあり方を考えさせる興味深いものなので記しておきたい。「このホールができたことは、お客さんにとってはメニューが広がったということではないか。中華や和食などの定番に加えて、クラシック音楽が時々豪華気分を味わうためのフランス料理だとすると、エスニックが加わったということ。『でもこれは、もういいかな・・・っていう気分です』という人が来なくなっているのではないか。」

展覧会における、最近の観客の少なさを憂える専門家は少なくなかった。例えば美術館の評議員でもある一人は「入場者数を見ると、少なくして唾然とする。」と話している。グループ・インタビューでも同様であり、その対策として、より積極的な広報活動を行うことに関する具体的提言もあった。

- (ある映画作品の上映について) 良い映画なのに来ている人が少ない。もっと PR したらいいのと思う。
- 生活に関わりのあるような企画をやったら人が増えるのではないか。
- 企画の一番のポイントを一般の素人が聞いてもわかるように PR すべき。
- テレビで見えても入りにくい雰囲気がある。もっと軽い感じでみんなの興味を惹くような宣伝の工夫をしたらどうか。
- メジャーでないものに人を来させるようになって欲しい。
- スーパーにチラシをおいたり、学校にポスターを貼ったりしてはどうか。

(2) 教育普及活動

集客のための対策のうち、より長期的なものとして、若い人への教育活動を行うこと、子供が美術館に親しむことの重要性がいくつかのグループで話された。

- 小・中学校にもっとPRしたらと思う。
- 小・中学生から学校単位で来るようにしたらどうか。
- 学芸員の方に学校の先生とは違うやり方で、美術館の楽しい見方を話してくれると子供が夢をもてるではないか。
- 子供に、あたりまえのここのように文化に触れて欲しい。
- 以前住んでいた名古屋市千種区は、子供が小さいときから文化に親しむ環境だった。親子で美術館へ行くのも日常の一つ。PTAの会なども美術館で食事会をしたり、ということがよくあった。高知もそうになって欲しい。
- 鑑賞する目を育てるために、小さいときから遊園地に行くような感覚で来られるような部分を美術館に持たせてはどうか。

「子供の頃から芸術に親しめば、大人になってもそれを日常的なものとして楽しめるはずである」という「理論」は、一般に受け入れられているものであろう。しかし、青少年に芸術への親しませ方、楽しみ方を伝えていく手段・手法となると、あまり確立したものがあるとは言えない。実際我が国においては、義務教育においては美術・音楽に一定時間が割り当てられており、さらにピアノなどを子供に習わせることも盛んである。しかしそれにも関わらず子供の芸術への興味が育まれているとは言えないことが問題であり、この部分は大いに工夫の余地がある。学校教育における改善も必要であるが、美術館自身が独自にプログラムを開発し、将来の鑑賞者を育てていく必要がある。

また大人を対象にした教育活動の必要も専門家インタビュー、グループ・インタビューにおいて指摘された。例えばグループ・インタビューでは「自分は学校の図画で習って、ただ美術が好きというレベルである。一歩進んで自分一人で美術をより深く楽しめるレベルに達したいのだが、どのようにしたらよいのかわからない」という発言があった。この発言者は美術に関する基本的知識（及びそのための言語）を持たないので、学芸員などに何か尋ねる機会が仮にあっても、何かからきいたらよいのかわからない、と感じていた。このようなニーズを持つ人は潜在的に多いのではないと思われるが、それに応えるような教育活動はまだ行われていない。

同様に、他の専門家も「現在本当に問題なのは、持ってきたプログラムの質の高さをどのように展開させていくか、ということである。なるべく早くに大人への鑑賞教育を行わないと、もっとわかりやすいものを」という声につながる。見もしないで反発を持つ人が多くなる危険を防がなければならない。」と指摘し

ている。これは美術館側の立場にたった鑑賞教育活動の必要性だが、実際、来館者の間においても、全国の美術館におけるギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへの要望は年々急増している。当館でも開館翌年より、企画展については担当学芸員が一つの展覧会につき2回程度必ずギャラリー・ツアー、もしくはギャラリー・トークを行い、年に何回かは外部講師による企画展関連の講演会も開いてきた。このスタイルは一貫しているが、回数的にもまた内容面においても拡大して欲しい。

この点については、グループ・インタビューにおいても、鑑賞者が展覧会などをよりよく理解したい、という気持ちが伺われる発言があった。

- (山本容子展に関して) 講演をきいて展覧会の内容がもっとよくわかった。もっと学芸員の説明があればよいと思うし、作家に会って話を聞ける機会というのはとてもよい。
- 新聞記事(注:恐らく担当学芸員の執筆した記事を指す)と学芸員の話が同じなので、新聞で十分と思うこともある。鑑賞者のレベルに合わせた話が欲しい。

これを敷衍して、鑑賞方法を学ぶ、といったことだけではなく、芸術文化の楽しみ方に関する新しい提案をしていって欲しい、という意見が、専門家及びグループ・インタビューからも出た。

さらに別の専門家からは、受身の鑑賞・学びではなく「創造的体験」の方法を奨励する仕組みをつくるべきである、という一風変わった意見が出た。ここで言う「創造的体験」とは、定まった手法を生徒に教え、いかに上手につくらせるか、といった従来型の講座ではなく、例えば参加者がプロの役者を演出することを通じて演劇の本質を体験的に学ぶというようなワークショップを指している。すなわち、到達すべき目標やそこまでの道程があらかじめない中、素人がプロの助けを借りながら、表現の本質にせまる、あるいは鑑賞の糸口をつかむ、といったワークショップが想定されている。このようなタイプの活動は、まだ全国でも数少なく、具体的に説明することが難しいものだが、例えば作曲家の野村誠が行ってきた老人ホームにおける「音楽づくり」の活動が一つの事例と言える。

(3) 市民の参加

上述のテーマの延長となるが、市民の能動性を引き出す、あるいは市民の企画・

運営への参加を促すような仕掛けの必要についても、しばしば専門家から指摘がなされた。例えばある専門家からは「質の高い芸術を提供する」こと自体の限界が語られた。美術館では基本的に、学芸員など美術の専門家が選んだ「アート」が一方的に提供されているのみであり、観客からの意見・働きかけを汲み取ろうというものではない。すなわちコミュニケーションが一方向的である、というのである。

ホールあるいは展覧会企画における市民参加の可能性は、グループ・インタビューにおいても提案され、具体的には来館者に対して「次に何が見たいか」というアンケート調査をとることと、企画委員会を組織することが話題になった。同じグループの中でも半数ぐらいは、企画委員会のようなものができたらぜひ参加したいという意欲を見せていた。

(4) 美術館における創造活動

展覧会・ホール事業の内容について、当館において紹介される芸術文化の水準は高いものの、その中にオリジナルなものが少ないことが、何人かの専門家より指摘された。

自主制作は、実はそれほど少ないわけではない。企画展の中に高知の現代アートや工芸などに関連したものもあれば、1998年度には高知市在住の作曲家武中淳彦作曲の環境音楽CD「水辺の情景」を制作している。また2000年には、パフォーマンス・グループのダムタイプの作品「メモランダム」の制作に関わった。最も注目すべきは、1994年度に高知在住の映像作家大木裕之の監督による映像作品「HEAVEN-6-BOX (第46回ベルリン国際映画祭招待出品) 及び1996年度には林海象監督映画「ちんなねえ」を製作していることである。美術館等の文化施設で映画を上映するところはあるとしても、製作にまで携わるという点では、全国でも稀な例である。この二作品は劇映画というよりは、美術館主催事業のドキュメンタリーの側面もあり、展覧会との連動の中で企画が進んだ(前者は「クール時代 美術のノイズ・ミュージック」と、後者は「絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵」との連動)。単なる記録ではなく作品の延長、異メディアによるもう一つの表現、といった意味合いを持った。どちらも国内外の映画フェスティバル、ミニ・シアターでの上映により多くの人から評価を受けられるよう、配給会社への働きかけもなされた。

専門家やグループ・インタビュー参加者からは、この点につき、さらに多様な

提案が出された。例えば「(ホール事業について)高知でオリジナルな作品をつくったらどうか。さらに全国のホールの間で共同製作をしたり持ち回りをして、作品の流通もしたらどうか」(注:これは上述の映画製作の場合とほぼ同じであり、それを舞台芸術で想定している)あるいは「高いお金を出して作家を外から呼ぶアーティスト・イン・レジデンスではなく、美術館が地元アーティストのスカウトに出かけて、新人をどんどん発掘し、外に売り出していくとよい」という声があった。同様にグループ・インタビューにおいても「高知地元のアーティストを育てて欲しい」「創作活動をしている人を発掘して欲しい」という意見があった。

第3章 来館者への影響

ここでは、美術館が設立されたことにより、新たに生まれた「価値」について探りたい。来館者はどのように美術館を生活の中に取り込んできたのか、美術館により生活にどのような変化があったのか、ということを見ていく。

(1) 来館者にとっての美術館

グループ・インタビューでは、美術館とどのように付き合っているか、美術館をどのように利用しているか、ということについて尋ねた。さまざまな答えが返ってきて、グループ・インタビュー参加者が高頻度の利用者、美術館に好意的な人々に偏ってはいるものの、美術館への愛情こもった発言が多かった。中には、気分転換も兼ねて入館料のかからない部分だけを頻繁に利用するという人もいた。

- 美術館はセカンドハウスのようなもの。ライブラリーに行って美術書を見るのにもよい。用がなくても来ることがある。
- のんびり出来るので、疲れたときにここに来てホッとする。
- 誰かと来ても一人で来ても楽しめる場所。
- 美術館の存在は癒しになる。県外にいる姉が帰ってきたとき、飛行機に乗るまで時間があれば、シャガールを見せに、空港に送る途中に寄ったりする。時間を有効に使うという意味で、ショッピングよりは美術館を見る。
- 本来の自分に戻れる場所。学生時代に映画・舞台など商業ベースでないものを東京で見っていた。高知に戻ってきて、自分の中で物足りない状態の中で過ごしていた時期があった。私にとっては大事な存在。
- 自分をリセットする場所。ここで元気になる。

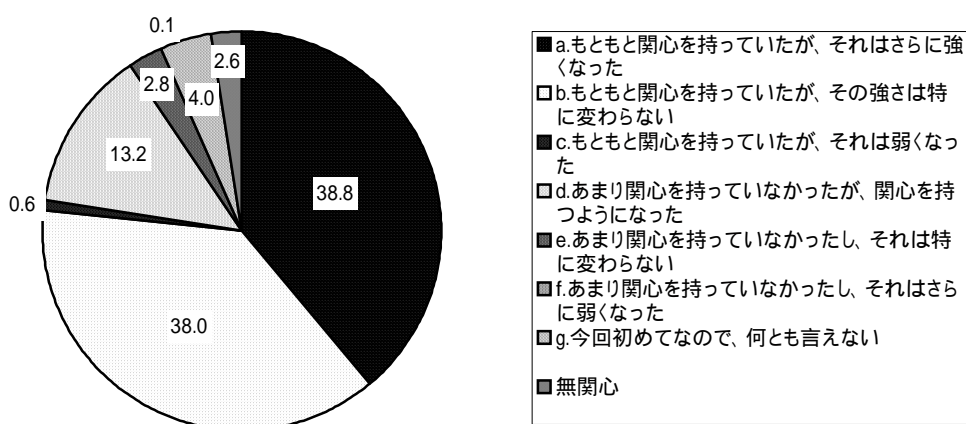
また美術館に来ることで新しい世界との出会い、知的刺激を得る人々もいた。

- 美術館は特別な場所。知らないものや新しいものがある場所。
- 刺激的な場所だと思っている。若いうちにいろいろと感じておこうと思って来ている。
- 大きな楽しみの一つ。予定帳に書き込んで見に来るまでにワクワクできる。
- 絵を見る以外に想像を働かせられるので脳みそをほぐす時間になる。リフレッシュするところ。

アンケート調査においては、グラフ 13 に見られるように、美術館に来るようになってから芸術文化への関心が強くなったという意見が圧倒的である。また今後は他の企画展、ホール事業を見てみたいという意欲も強い(グラフ 14、15)、美術館が「県民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である」という文を肯定する人も多い(展覧会回答者の 74.2%、ホール回答者の 67.5%)

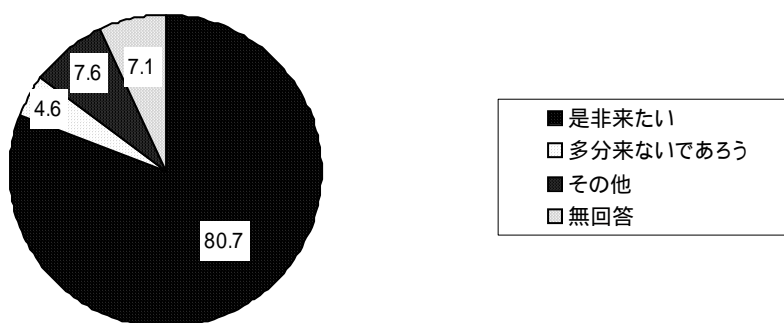
【グラフ 13 来館経験が芸術への関心に与えた影響(展覧会回答者)】

美術館の影響 全体(N=934)



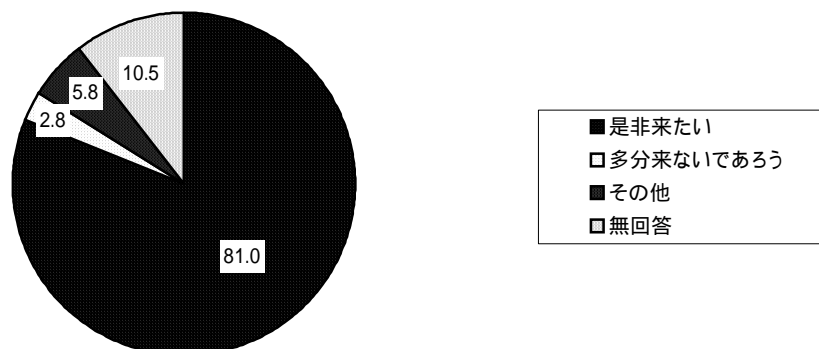
【グラフ 14 今後も展覧会に来たいか(展覧会回答者)】

今回の訪問の影響 全体(N=934)



【グラフ 15 今後もホールでの公演に来たいか（ホール回答者）】

今回の訪問の影響 全体(N=400)



このように、少なくとも調査対象者に対しては、美術館が市民の好奇心を刺激し、芸術文化へのさらなる関心を高めるといふ大きな効果をもたらしたと言える。

(2) 個々の生活への影響

グループ・インタビューにおいては、個々の生活への影響が次のように語られた。

- 高校生の時に映画祭に来て世界が広がった。
- 都会・世界とつながるところができた。
- ブラジル映画祭の時、監督に質問する機会があり、小さなことだが世界が広がったように感じた。
- 以前に比べたら（自分の工芸品に対する）見方のセンスがアップしたように思う。一度美術館に来ると次へとつながる。今までは見過ごしていたようなことが目につき始めた。
- 他の余暇活動と違い、美術だと全く一人の世界に入れる。仕事を忘れられる。美術館ができる前はあまり一人でいたいと考えることもなかった。
- 以前に美術館で仕事の知り合いに目撃されたことがあり、のちにその話をされ、会話がはずんだ。その相手の違う人間的側面を見られて面白かった。新しいコミュニケーションのきっかけとなった。

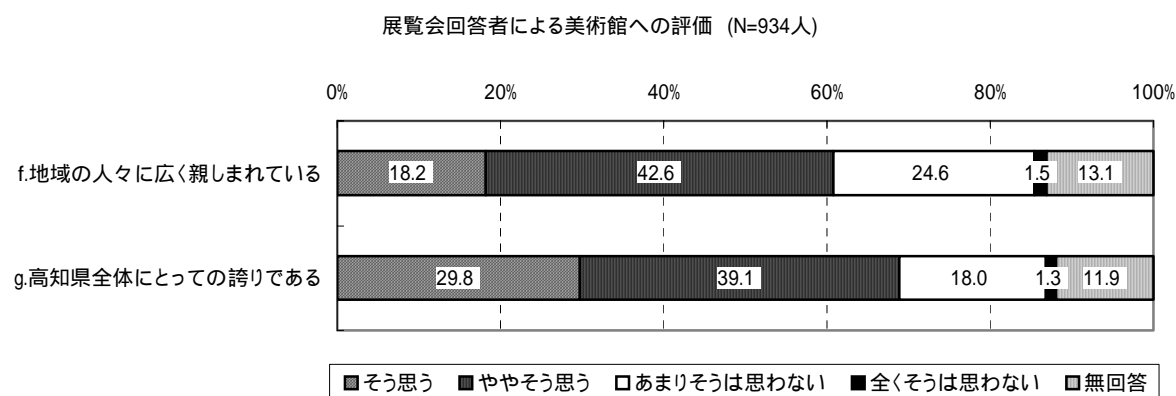
また特に年間観覧券を購入した人からは、「年に3回ぐらいは来るから経済的に得だと思い購入したが、他の企画展も無料なので来るようになったところ、さまざまな芸術文化表現に興味を持つようになった」あるいは「一つの企画展を何度か丁寧に見ることで違う見方ができるようになった」という発言があった。このように、美術館は来館者に対して、彼らが興味を持った芸術文化を一通り提供したことにとどまらず、それを一つのきっかけとした人同士のつながり、違う世界への窓口をつくったり、日常の中にある美やアートへの目を開かせたり、芸術表現の新しい見方を引き出すといった、さまざまな効果をもたらしてきた。また来館者には、単に展覧会や公演を見て帰るという「受身の鑑賞者」ではなく、自分なりの付き合い方を生み出して、美術館を能動的に利用する人が少なくないこともわかった。

第4章 一般市民、地域社会にとっての美術館

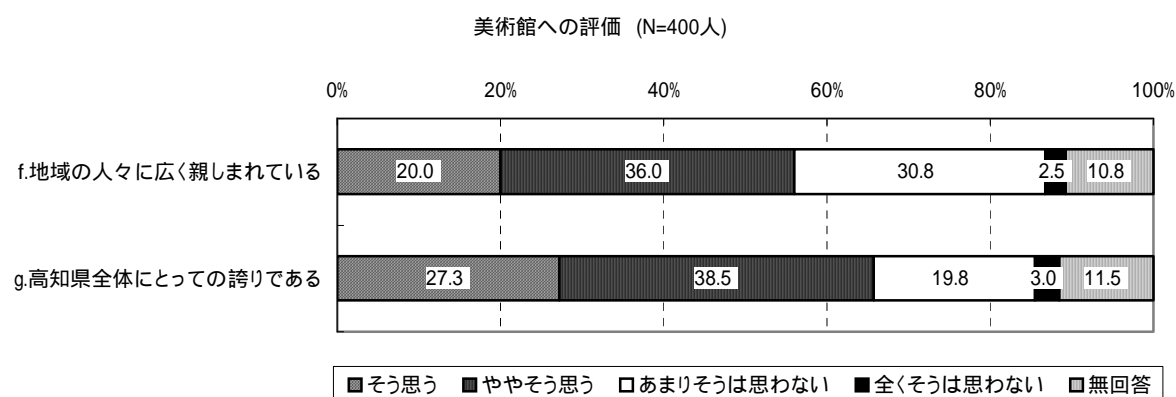
第3章においては来館者に親しまれている美術館像が浮かび上がったが、当館は、一般市民、地域社会においてはどの程度親しまれているのだろうか。本章では地域社会全体への影響、貢献に注目する。

アンケート調査においては、美術館が地域の人々に広く親しまれていると思うかどうか、また高知県全体にとっての誇りであると言えるかどうかを尋ねた。次のグラフ16・17に見られるように、回答者の6～7割が肯定的見解を示している。

【グラフ16・17 地域社会と美術館（展覧会回答者）】



【グラフ17 地域社会と美術館（ホール回答者）】



しかし、グループ・インタビュー、専門家インタビューにおいては肯定的・否定的双方の意見が入り混じった。まず肯定的な意見としては次のようなものである。

- 高知県にとって誇れる場所であると思う。他では出来ないことをやっている。
- 高知にはこういうのがあるのよ、ばかにしちゃいけないのよと自慢に思ったことがある。
- 自分の周辺では、図書室に来たり、カフェに来たり、と全体には関わらなくてもちょこちょこ来ていて親しまれている。
- 美術館が出来たときはうれしかった。たまに他県に移ろうかという話が（家族の間で）出ないではないが、（美術館の存在は）高知を離れたくない理由の一つですらある。
- 東京にいる友達に、この美術館ではよい企画をしていると誉められてうれしかった。
- 田舎なのに全国でもあまりやらないようなことをやっていて、価値あるものができたと誇りに思っていた。

しかし、次のような、懸念を表す発言もしばしばあった。

- （私が美術館にしばしば出かけるので）他人からは「美術館には何か用があるの」と聞かれることもある。普通は、自分とは無関係な場所とされているのではないか。
- 郡部になると来るのに時間がかかるし、交通の便も悪いので構えて来るようになり、来てモリラックスできないのではないか。
- 友達に自分が見てよかったものを勧めても、みんなは来てくれなくてがっかりしている。芸術のある環境に馴染んでいないのか、どうしてもみたいという欲求がおこらないのか。
- 高知の人は芸術や文化に対して疎いような気がする。美術館に来ることに構えてしまうのではないかと思う。
- 美術館はみんなの楽しみではない。一度も来たことの無い人がいる。美術館はよそ行き場所だと思われる。
- 出来たときは勢いもあったが、ある程度県民の目が肥えてきた今日、本当に県のものになっているのか（問い直すべきである）。

以上、美術館が地域社会においてどのような存在だと考えられているかを、限られた情報をもとに述べてきた。グループ・インタビューにおいては、肯定的・否定的意見が入り混じり、どちらが優勢ということもなかった。「自分は美術館が好きだが、周りの人には理解してもらえない」という発言は、筆者が個人的に予想していたよりは少なく、「職場の意外な人が美術館のポストカードを机に

おいていた」「周りの人も口に出して言わなくても美術館に興味のある人は多いと思う。心で感じていても自覚がないかもしれない。」などといった興味をひかれる発言もあった。しかし、序章で述べたように、非来館者も含めた大規模なアンケート調査を行わなければ、全体の意向はとらえられず、本プロジェクトにおける調査結果のみで十分に論じることができない。本章におけるコメントはここまでにとどめる。

終章 今後の課題と提言

これまで、当館の 研究開発機能、 一般利用者への直接的サービス部分、 来館者の芸術鑑賞行動・生活一般への影響、 地域社会における美術館の存在意義などについて、さまざまな調査結果をまとめてきた。既に第4章までの間で、今後の必要性についてふれた部分もあるが、終章では、これらを総合して、当館の運営上の課題と方向性について提言としてまとめる。

(1) ミッションの明確化と戦略的経営計画

当館の設立にあたっては、そもそも美術館の運営経験者を含まない体制で基本構想作成が進んだが、そのわりには野心的にホール事業も展開しようという計画がたてられた。館長をはじめ、学芸員、アート・コーディネーターとも専門職として雇用する本格的な組織づくりがなされたことが最大の強みであったと言える。本格的な美術館が全くない土地においてスタートし、県庁・県議会における文化経営に関する理解を得ることの難しさは他県同様あったが、かなり意欲的にさまざまな事業を展開してきた。これには知事の「県はお金は出すが文化の内容に口出しはしない」という口約や、文化環境政策課担当者たちの努力、地元紙高知新聞の協力などが幸いした部分もある。予算や人員の限界や、特に1998年には高知豪雨による被災にあい、一年以上にわたる災害復旧工事があったことなども考慮すると、驚くべき成果をあげたと言ってもよいだろう。

しかし、これまで当館の運営は、明確な方針を欠いたまま「よいこと」をやり続けてきたのみ、というきらいがある。この「よいこと」とは、主に館長、学芸員、アート・コーディネーターなどが企画として芸術的に優れていると思うこと、であり、その意味では芸術面で全国水準に達しようという努力は惜しまれなかった。このような信念は重要であるが、公共的な資金を使い住民へのアカウントビリティ（説明責任）を負った事業であるという自覚を新たに、「水準の高い芸術を提供する」ことの一步先を考えていく時期にさしかかっている。

すなわち、当館の存在意義、社会との関係を問い直し、そのミッション＝使命を明確にしなければならない、ということである。「使命」にあたるものとしては、「優れた作品の鑑賞の場として、また気軽に楽しく創作に親しめる美術館として、広く県民の美術に対する眼を養い創作意欲を高め、芸術文化における豊かな活動を引き出し、県民の文化意識の一層の向上に役立つことを目的とする。」という設置目的がある。しかしこれは、どちらかといえば、展示事業と、

創作講座の開催、美術だけではない芸術を紹介するホール事業を行うことが想定されていた時点で、事業計画を言い換えて文章化したものに過ぎない。太下義之が美術館評価について書いているように、「そもそもいったい何のためにアートを振興するのか、アートを通じて、社会的な課題にどのように対応しているのか、という根本的な目的の明確化が必要不可欠」なのである¹。

このような存在目的の明確化とそれを実行に移すための方策を考える作業を、戦略的計画策定と呼ぶ。これは企業・公的セクターの団体のどちらにも有効な経営手法の基本である。美術館運営に企業経営の手法をそのまま持ち込むことにはいくつかの問題があるが、営利を目指すわけではなく抽象的なレベルでの公益を目指す団体ほど、存在目的を見失いやすい。したがって、最低限の戦略的計画をたてるべく、当館の存在意義、使命、社会的役割などを言語化する作業が必要である。

作業にあたり第一に取り組むべきは、自己分析と市場環境の分析である。これを俗にSWOT分析というが、当館には、他の美術館あるいは文化施設と比べて、どのような強みと弱みがあるのか、そして当館の運営環境において、追い風となっている要素と脅威となっている要素には何があるのか、それらをどのようにコントロールしていくことができるか、ということ認識するものである。これらは関係者の間で暗黙のうちに了解されているものであろうが、実は理解に相違があるかもしれない。またあえて関係者たちで一緒になり洗い出すこと自体に意義がある。

このような状況分析を行うことにより、使命を明確にする。それにあたっては、館長以下なるべく多くの人々で議論を重ね、地域内の他の文化団体や市民などの意見を聞く機会もつくりたい。そこから美術館内部で中期的・戦略的な目標を立てていく。中期的とは、ある一つのプロジェクトの遂行によりすぐに結果が出るようなものではなく、いくつかのプロジェクトや改革を重ねていく中、すなわち3年以上5年ぐらいの間にそれなりの成果を出す、というようなものである。

冒頭に述べたように、今回の評価プロジェクトにはこのような過程を経て策定された計画がなかったため、それと照合するタイプの評価はできず、レビューという形をとった。今後近い将来、使命と中長期計画をまとめた文書づくりが

¹ 太下義之「美術館の評価 行政評価の視点からみた美術館活動の課題と展望」加藤哲弘他編『変貌する美術館』昭和堂、2001年、141ページ。

できるとすれば、次回は、例えば5年後にそれをベースとした点検を行うことが効果的である。美術館の活動は多岐にわたるため、全てを量・質の両面から評価していくことは難しいかもしれない。しかし、何らかの自己評価の仕組みをつくり、重点領域だけでも今回行ったような質的評価を導入しておくことは、入館者数だけで美術館の活動成果が問われるという事態を避けるためにも必要なことである。さらに調査・研究活動成果、展覧会の質、ホール事業の質などに対して、専門家による定期的な外部評価を導入することが望ましい。県内で唯一の本格的美術館として、直接的な競合相手に欠く当館であるからこそ、このような体制をとることが必要なのである。なお、量的な評価については、今後各地における評価が進んでいけば、似たような立地条件にあり、同じぐらいの規模の公立美術館と比較する方式（ベンチマーク）も採用するとよいであろう。

（2）戦略的マーケティングの導入

第2章においてふれたように、来館者数の伸び悩みは、近年の当館にとっての一つの大きな問題である。美術館などの文化施設、文化事業においては、来館者数という指標が示すものだけでは測れない、重要な機能と意義があることをこの評価プロジェクトにおいては示してきた。しかしながら、多くの自治体において財政難が深刻化する中、美術館のように採算がとれない事業に公的資金を投入し続けるためには住民へのアカウンタビリティがきちんとしていなければならない。その手段の一つが、「来館者が少ないのは、企画がよいにも関わらず、芸術のわかる人が少ないからである」という論理を捨て、戦略的マーケティングを導入することである。

戦略的マーケティングとは、チラシを多く配布したり宣伝文句を工夫することではなく、ましてや単に大衆に人気が出そうな展覧会を企画して入館者数を伸ばそうとすることでもない。住民の潜在的あるいは顕在化したニーズを把握し、それに応えつつ双方向のコミュニケーションをはかることである。広報が、出来上がった展覧会なりホール事業を広く人々に知らせていくことであるとすれば、これはマーケティング活動の一部に過ぎない。戦略的なマーケティングにおいては、美術館に潜在的興味を持ちつつ、きっかけがなく来館しない人をひきつけていく活動、さらに将来の観客となる子供・若者への働きかけも含むものであり、その意味では教育普及活動と重なる。また、美術館を頻繁に訪れる人々の経験をより豊かなものにするには、どのようにしたらよいのか、工夫を重ねることも含む。

もっとも、美術館においては、マーケティングに関する根本的問題がある。第2章において、グループ・インタビュー、専門家インタビューより、子供が来る美術館になり、将来の観客を育てることの重要性を指摘したが、同時にグループ・インタビューにおいて、美術館では静かで一人考え事のできるから好きだという話も多く出た。子供も見て楽しめる展覧会やホール公演の必要もあるが、大人が楽しめるものも必要とされる。すなわち、違ったターゲット層を想定して一つずつの企画をたてていくことが必要なのである。人により違った楽しみ方・期待があるということは常識であろうが、これをより詳細に調査し、多様なターゲット層の行動と心理を把握・理解することがまず必要である。この分類法は「大人/子供」といった単純なものではなく、美術・芸術に対する基礎知識の段階別になるかもしれない。1995年に、ニューヨーク近代美術館における鑑賞教育の担い手アメリア・アレナスが来日し、現代アートの鑑賞方法を観客との対話から、観客が自ら見つけていけるよう導く手法が紹介され、美術館界で大きな話題を呼んだ²。実は、ニューヨーク近代美術館においては、数年かけて、人々の美術鑑賞能力を分析し、段階に分けそれぞれの特徴に合わせたカリキュラムを作成するプロジェクトが進行していたことが背景にあった。

このようなプロジェクトは、日本では一つの美術館ではまかないきれないだろうが、とりあえずは、多様な視点にたつ多様な教育プログラムが用意されることが望ましい。例えば知事など地元の有名人が「私がこの絵について思うこと」などを語り、絵を見るという行為を個人的なものにしていく、そしてプロではない人なりの解説なども加え、鑑賞教育活動に多様性を持たせるとよいであろう。これは単なる解説のみではなく、作品を通して人々が議論する場を美術館が提供することである。また美術館を頻繁に訪れる人々は、企画の切り口やテーマ性を学芸員・アート・コーディネーターから聞きたい、アーティストと話す機会が欲しい、などの、パーソナルな情報と交流を求めている。それに応えるプログラムが、初心者向けのものとは異なる性質であることは明らかであろう。

より短期的・直接的な集客に関わる部分では、広報の一層の拡大強化と、顧客の分析が必要であろう。広報資料としてつくられている「高知県立美術館ニュース」及びリーフレット「INFORMATION」はカラー版で見やすく、内容も読みやすく、よくできた印刷物である。東京在住の専門家の一人も「高知に行く

² アメリア・アレナス著、福のり子訳『なぜ、これがアートなの』、淡交社、1998年を参照するとよい。

ことはなかなかないと思いながら、きれいな印刷物なので、すぐには捨てられない。周りの人に見せたりする」と語っていた。他にも「あまりとがった雰囲気づくりではなく、誰にでも親しみやすく、しかし安っぽくない、上手にできている」という声があった。

問題は配布の方法である。現在のところ、美術館友の会会員には郵送し、美術館や県関係の建物には自由にとれるようおいてあるが、それ以上の広がりが無い。基本的には一度来館すると、次の公演・展覧会の情報が手に入り、また来やすくなるが、逆に一度足が遠のくと情報が入らなくなってしまう。具体的にどのような配布方法及びその他の情報発信方法が有効か、ということについては、その目的にそったマーケット調査を行った上でないと述べられない。調査では、美術館に来る人、来ない人の情報収集手段と来館に関わる意思決定の仕組み、来館にあたっての交通手段、チケット購入のタイミングと購入方法、公演や展覧会の内容に関する価値基準、鑑賞の方法、館内での時間の過ごし方、次回の来館につながる要因、などの項目につき調べる必要がある。今回のアンケート調査、グループ・インタビュー調査の一部は、これらの要素を明らかにする部分もあるが、調査目的が異なるため、別途、調査を設計し実施する必要がある。その上で来館者たちをセグメントに分け、それぞれの行動パターン、価値観を明らかにし、それに合わせたマーケティング戦術を練っていくことが求められる。

(3) プログラムの多面的展開

上述したことに関係するが、このように来館者とのコミュニケーションを密にするためには、単に広報を強化するだけの問題ではなく、一つずつの事業を多面的に展開していくことも重要だと思われる。本章で提言していることは学芸員、アート・コーディネーターたちの仕事量を増やすものばかりだが、企画の本数を減らしてでも、一つずつの企画を丁寧にフォローすることが今後の10年間は必要だと思われる。その結果、当館の全国的知名度に影響が出るかもしれないが、これからの美術館は、企画を次々と出していたり、全国レベルで最先端のアートを紹介していること自体よりも、むしろそれらをどれほど地域社会に浸透させているか、という点で高く評価される方向にあるのではないか。

(4) 市民の参加とネットワーク化

まだ数は少ないかもしれないが、美術館の企画や運営に能動的に参加したい、

という人々は着実に増えている。カルチャー・サポーター制度への応募が多いことはその表れの一つであるが、グループ・インタビューにおいても、そのような声はときどき聞かれた。これも学芸員などへの負担増となることに違いないが、美術館への市民参加を多角化していくこと（すなわち展覧会を見たり創作講座に出席する以上の形態で）またNPOなどとの連携を図っていくことも、今後公共の美術館に求められる役割の一つとして広まっていくであろう。市民の参加度を高めるには、展覧会や公演への感想・批評を交わすようなウェブサイト上での掲示板の管理も面白いかもしれない。例えば学芸員あるいは外部専門家が問題提起をし議論をまとめる役を務めながら、一定期間、投稿を募る。これにより、少なくとも美術館へのコミットメントが強い市民の間においては、鑑賞能力・批判能力が高まり、さらに目に見えない形でのネットワーク、コミュニケーションが生まれることも期待できる。

（５）文化施設から「文化的触媒」へ

これまでの当館は、どちらかと言えば箱の中に収まって活動を展開してきた。確かに移動ハイ・ビジョンやアート電車（土佐電鉄の車両へのペインティング）などの事業はあったものの、工夫と拡大の余地がある。分館をつくる構想が時々出たり、郡部などで一時的に展覧会を開くことが考えられてきた。2000年度よりは、毎年2ヶ所で公民館などを使った展覧会が始まったが、展覧会にふさわしい会場の確保が常に問題となっている。あまり設備面にとらわれずに自由な発想で展覧会を開いてみると案外うまくいくのではないかと思われるが、もし設備面でのスタンダードにこだわるのであれば、展覧会・公演ではないやり方を発想すべきであろう。例えばアーティストを地域に連れて行き、そこで住民と共同で何か創作するプロジェクトを実施することも、うまくやれば美術館への敷居をとりはずす結果にもなる。近年では、まちづくりと合体した「アート・プロジェクト」が全国各地で開かれつつある³。当館も、「国内外の一流の芸術文化が鑑賞できる美の殿堂」として客が訪れるのを待つ文化施設であるのではなく、地域社会に散在する文化発信のエネルギーをつなぎ合わせる触媒の場として機能していくことが望ましいように思われる。第2章で述べたような、地元アーティストの発掘作業、全国・世界への売り出し作業も、この文脈に位置付けることができるであろう。

³ 詳しくはドキュメント 2000 プロジェクト実行委員会『社会とアートのえんむすび』トランスアート社、2001年を参照。

巻末資料 一般来館者アンケート調査詳細

I. アンケート調査の実施目的

本アンケート調査は、高知県立美術館への来館者における美術館への評価として、以下のような事項につき尋ねたものである。

- 高知県立美術館の利用状況、他の館やホールにおける展覧会・公演への参加頻度
- 演目、展覧会内容、職員対応、ホールや建物、設備、レストランなど付帯施設への満足度
- 美術館への評価
- 来館による芸術への関心の変化
- 今回の公演・展覧会の満足度
- 情報収集手段
- 今後の意向・希望

II. 実施要領

本調査では、2002年度実施のホール主催公演から音楽（アルディッティ弦楽四重奏団 & 高橋アキ（ピアノ）コンサート）、演劇・舞踊（カポエイラ・パフォーマンス）、映画（夏の定期上映会「アニメーションってすごいんだよ！」キンダーフィルムフェスティバルがやってくる！）の三公演における入場者、2002年度開催の展覧会「スーラと新印象派 輝ける点描の画家たち」（以下「スーラ展」）「山本容子の美術遊園地」（以下「山本容子展」）への来館者を対象にした。どちらにおいても、当日会場でプログラムとともにアンケート用紙と筆記具を配布し、その場で記入し会場に備え付けの箱に入れてもらう方式をとった。実施日、配布数、回収数などは以下のとおりであった。

	企画名	アンケート実施日	配布	回収	回収率（％）
ホール関係	アルディッティ	2002年6月9日	189	93	49.2
	カポエイラ	2002年7月6日	386	173	44.8
	映画上映会	2002年8月17、18日	278	134	62.2
ホール計			853	400	46.9
展覧会関係	スーラ展	2002年6月21日～7月7日 (6/24, 7/2を除く)	2610	559	21.4
	山本容子展	2002年7月21日～8月8日 (7/22, 7/29, 8/5, 8/6を除く)	2850	375	13.2
展覧会計			5460	934	17.1
総計			6313	1334	21.1

III. アンケート調査結果の集計と分析

演目により若干の表現の違いはあるが、基本的にはホール関係では同一の質問票、展覧会関係では別の同一質問票を用意した。しかし、質問項目の大部分は、ホール関係と展覧会関係とで共通するものであったので、分析にあたっては、以下のように、関連する項目をまとめて整理した。個別の展覧会、事業鑑賞者以外には、スーラ展と山本容子展における回答者を合わせて「展覧会回答者」、展覧会で配布したアンケート用紙の間については「展覧会問」、ホール事業三公演回答者を全て合わせて「ホール回答者」、ホール事業で配布したアンケート用紙の間については「ホール問」とした。この資料の最後に展覧会、コンサート等で配布したアンケート票をのせたが、「アンケートのお願い」の次にある（展覧会）などの（ ）部分は、この報告書のために新たに加えたものである。

1. 来館経験、他文化施設における当該分野への参加頻度

(1) 企画展来館経験

当館企画展に来た回数(展覧会回答者、展覧会問1)

	計	今回初めて	2～5回	6～10回	11～20回	21回以上	無回答
展覧会計	934	199	263	193	188	71	20
	100.0%	21.3%	28.2%	20.7%	20.1%	7.6%	2.1%
スーラ	559	105	155	112	129	49	9
	100.0%	18.8%	27.7%	20.0%	23.1%	8.8%	1.6%
山本容子	375	94	108	81	59	22	11
	100.0%	25.1%	28.8%	21.6%	15.7%	5.9%	2.9%

当館企画展に来た回数(ホール回答者、ホール問6)

	計	全くない	2～4回	5～9回	10回以上	無回答
公演計	400	43	122	117	91	27
	100.0%	10.8%	30.5%	29.3%	22.8%	6.8%
アルディッティ	93	6	25	29	30	3
	100.0%	6.5%	26.9%	31.2%	32.3%	3.2%
カポエイラ	173	19	66	48	33	7
	100.0%	11.0%	38.2%	27.7%	19.1%	4.0%
映画	134	18	31	40	28	17
	100.0%	13.4%	23.1%	29.9%	20.9%	12.7%

(2) ホール事業鑑賞経験

展覧会回答者(展覧会問3)

	計	全くない	2~4回	5~9回	10回以上	無回答
展覧会計	934	517	267	86	39	25
	100.0%	55.4%	28.6%	9.2%	4.2%	2.7%
スーラ	559	319	145	56	27	12
	100.0%	57.1%	25.9%	10.0%	4.8%	2.1%
山本容子	375	198	122	30	12	13
	100.0%	52.8%	32.5%	8.0%	3.2%	3.5%

ホール回答者(ホール問1)

	計	今回初めて	2~4回	5~9回	10回以上	無回答
公演計	400	111	132	93	60	4
	100.0%	27.8%	33.0%	23.3%	15.0%	1.0%
アルディッティ	93	12	32	28	21	0
	100.0%	12.9%	34.4%	30.1%	22.6%	0.0%
カボエイラ	173	61	60	38	13	1
	100.0%	35.3%	34.7%	22.0%	7.5%	0.6%
映画	134	38	40	27	26	3
	100.0%	28.4%	29.9%	20.1%	19.4%	2.2%

美術館ホールにおける当該分野の公演鑑賞経験(ホール回答者、ホール問2)

	計	今回初めて	2~4回	5~9回	10回以上	無回答
公演計	400	176	128	57	34	5
	100.0%	44.0%	32.0%	14.3%	8.5%	1.3%
アルディッティ(音楽)	93	24	40	17	12	0
	100.0%	25.8%	43.0%	18.3%	12.9%	0.0%
カポエイラ(舞踊・演劇)	173	97	52	19	2	3
	100.0%	56.1%	30.1%	11.0%	1.2%	1.7%
映画(映画)	134	55	36	21	20	2
	100.0%	41.0%	26.9%	15.7%	14.9%	1.5%

(3) 他の場所での当該分野鑑賞頻度

展覧会回答者(展覧会問2)

	計	全くない	年に3回程度	年に4回程度	年に5回以上	無回答
展覧会計	934	146	510	170	88	20
	100.0%	15.6%	54.6%	18.2%	9.4%	2.1%
スーラ	559	87	303	106	55	8
	100.0%	15.6%	54.2%	19.0%	9.8%	1.4%
山本容子	375	59	207	64	33	12
	100.0%	15.7%	55.2%	17.1%	8.8%	3.2%

ホール回答者(ホール問3)

	計	全くない	年に3回程度	年に4回程度	年に5回以上	無回答
公演計	400	83	201	66	45	5
	100.0%	20.8%	50.3%	16.5%	11.3%	1.3%
アルディッティ	93	7	56	20	10	0
	100.0%	7.5%	60.2%	21.5%	10.8%	0.0%
カポエイラ	173	61	87	16	6	3
	100.0%	35.3%	50.3%	9.2%	3.5%	1.7%
映画	134	15	58	30	29	2
	100.0%	11.2%	43.3%	22.4%	21.6%	1.5%

2. 美術館への満足度

(1) 展覧会の内容評価

展覧会回答者(展覧会問5)

	計	そのとおりだと思 う	ややそのと おり だと思 う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
展覧会のテーマは全体に興味深い	934	383	393	64	6	88
	100.0%	41.0%	42.1%	6.9%	0.6%	9.4%
展示内容はわかりやすく説明されて いる	934	285	417	138	7	87
	100.0%	30.5%	44.6%	14.8%	0.7%	9.3%
美術展は子供も楽しめるものである と思う	934	137	237	410	51	99
	100.0%	14.7%	25.4%	43.9%	5.5%	10.6%
年間を通じてさまざまな企画展があ り興味深い	934	323	397	97	10	107
	100.0%	34.6%	42.5%	10.4%	1.1%	11.5%

展覧会のテーマは全体に興味深い

	計	そのとおりだと思 う	ややそのと おりだ と思 う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
展覧会計	934	383	393	64	6	88
	100.0%	41.0%	42.1%	6.9%	0.6%	9.4%
スーラ	559	229	234	39	4	53
	100.0%	41.0%	41.9%	7.0%	0.7%	9.5%
山本容子	375	154	159	25	2	35
	100.0%	41.1%	42.4%	6.7%	0.5%	9.3%

展示内容はわかりやすく説明されている

	計	そのとおりだと思 う	ややそのとおりだ と思う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
展覧会計	934	285	417	138	7	87
	100.0%	30.5%	44.6%	14.8%	0.7%	9.3%
スーラ	559	165	250	87	5	52
	100.0%	29.5%	44.7%	15.6%	0.9%	9.3%
山本容子	375	120	167	51	2	35
	100.0%	32.0%	44.5%	13.6%	0.5%	9.3%

美術展は子供も楽しめるものだと思う

	計	そ の と お り だ と 思 う	ややそのとおりだ と思う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
展覧会計	934	137	237	410	51	99
	100.0%	14.7%	25.4%	43.9%	5.5%	10.6%
スーラ	559	75	126	263	34	61
	100.0%	13.4%	22.5%	47.0%	6.1%	10.9%
山本容子	375	62	111	147	17	38
	100.0%	16.5%	29.6%	39.2%	4.5%	10.1%

年間を通じてさまざまな企画展があり興味深い

	計	そ の と お り だ と 思 う	ややそのとおりだ と思う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
展覧会計	934	323	397	97	10	107
	100.0%	34.6%	42.5%	10.4%	1.1%	11.5%
スーラ	559	195	234	66	3	61
	100.0%	34.9%	41.9%	11.8%	0.5%	10.9%
山本容子	375	128	163	31	7	46
	100.0%	34.1%	43.5%	8.3%	1.9%	12.3%

ホール回答者(ホール問7)

	計	う そのとおりだと思 う	ややその とおりだ と思う	あ まりそ うは思 わな い	全 くそ うは思 わな い	無 回 答
美術展のテーマは全体に興味深い	400	103	169	47	2	79
	100.0%	25.8%	42.3%	11.8%	0.5%	19.8%
美術展の内容は全体にわかりやすい	400	82	178	58	2	80
	100.0%	20.5%	44.5%	14.5%	0.5%	20.0%
美術展は子供も楽しめるものである と思う	400	51	89	165	13	82
	100.0%	12.8%	22.3%	41.3%	3.3%	20.5%
美術館の建物内部は歩き回っていて わかりやすい	400	81	144	83	14	78
	100.0%	20.3%	36.0%	20.8%	3.5%	19.5%

美術展のテーマは全体に興味深い

	計	う そのとおりだと思 う	ややその とおりだ と思う	あ まりそ うは思 わな い	全 くそ うは思 わな い	無 回 答
公演計	400	103	169	47	2	79
	100.0%	25.8%	42.3%	11.8%	0.5%	19.8%
アルディッティ	93	23	48	12	0	10
	100.0%	24.7%	51.6%	12.9%	0.0%	10.8%
カボエイラ	173	49	63	29	2	30
	100.0%	28.3%	36.4%	16.8%	1.2%	17.3%
映画	134	31	58	6	0	39
	100.0%	23.1%	43.3%	4.5%	0.0%	29.1%

美術展の内容は全体にわかりやすい

	計	そのとおりだと思 う	ややそのとおりだ と思 う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
公演計	400	82	178	58	2	80
	100.0%	20.5%	44.5%	14.5%	0.5%	20.0%
アルディッティ	93	18	50	15	0	10
	100.0%	19.4%	53.8%	16.1%	0.0%	10.8%
カボエイラ	173	39	71	31	2	30
	100.0%	22.5%	41.0%	17.9%	1.2%	17.3%
映画	134	25	57	12	0	40
	100.0%	18.7%	42.5%	9.0%	0.0%	29.9%

美術展は子供も楽しめるものだと思う

	計	そのとおりだと思 う	ややそのとおりだ と思 う	あ ま り そ う は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
公演計	400	51	89	165	13	82
	100.0%	12.8%	22.3%	41.3%	3.3%	20.5%
アルディッティ	93	8	27	43	1	14
	100.0%	8.6%	29.0%	46.2%	1.1%	15.1%
カボエイラ	173	22	37	75	10	29
	100.0%	12.7%	21.4%	43.4%	5.8%	16.8%
映画	134	21	25	47	2	39
	100.0%	15.7%	18.7%	35.1%	1.5%	29.1%

(2) ホール事業内容への評価 (ホール回答者、ホール問 4 a, b)

演目(演じられる作品)(問4a)

	計	非常に 満足している	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
公演計	400	172	169	11	0	48
	100.0%	43.0%	42.3%	2.8%	0.0%	12.0%
アルディッティ	93	43	40	3	0	7
	100.0%	46.2%	43.0%	3.2%	0.0%	7.5%
カボエイラ	173	75	74	6	0	18
	100.0%	43.4%	42.8%	3.5%	0.0%	10.4%
映画	134	54	55	2	0	23
	100.0%	40.3%	41.0%	1.5%	0.0%	17.2%

演奏、上演の質(問4b)

	計	非常に 満足し ている	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い不 満が ある	無 回答
公演計	400	179	158	10	0	53
	100.0%	44.8%	39.5%	2.5%	0.0%	13.3%
アルディッティ	93	57	29	1	0	6
	100.0%	61.3%	31.2%	1.1%	0.0%	6.5%
カボエイラ	173	76	69	5	0	23
	100.0%	43.9%	39.9%	2.9%	0.0%	13.3%
映画	134	46	60	4	0	24
	100.0%	34.3%	44.8%	3.0%	0.0%	17.9%

(3) 美術館施設・設備、ホールハード面などに対する満足度

展覧会回答者(展覧会問6)

	計	非常に よい 満足し ている	やや よい	やや 悪い	非常に 悪い、 強い不 満がある	無回 答
照明などを含めた館全体の雰囲気	934	419	390	53	7	65
	100.0%	44.9%	41.8%	5.7%	0.7%	7.0%
建物の部屋配置	934	313	417	115	7	82
	100.0%	33.5%	44.6%	12.3%	0.7%	8.8%
館内の休憩場所	934	358	411	86	8	71
	100.0%	38.3%	44.0%	9.2%	0.9%	7.6%
入館料	934	229	487	131	11	76
	100.0%	24.5%	52.1%	14.0%	1.2%	8.1%
職員の対応	934	400	421	35	4	74
	100.0%	42.8%	45.1%	3.7%	0.4%	7.9%
美術館への交通アクセス	934	210	357	253	26	88
	100.0%	22.5%	38.2%	27.1%	2.8%	9.4%
アトライブラリー	934	156	503	72	6	197
	100.0%	16.7%	53.9%	7.7%	0.6%	21.1%
ハイビジョンシアター	934	200	459	59	7	209
	100.0%	21.4%	49.1%	6.3%	0.7%	22.4%
美術館内のレストラン	934	183	487	75	10	179
	100.0%	19.6%	52.1%	8.0%	1.1%	19.2%
美術館内のショップ	934	153	522	106	5	148
	100.0%	16.4%	55.9%	11.3%	0.5%	15.8%

照明などを含めた館全体の雰囲気

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回 答
展覧会計	934	419	390	53	7	65
	100.0%	44.9%	41.8%	5.7%	0.7%	7.0%
スーラ	559	237	240	40	4	38
	100.0%	42.4%	42.9%	7.2%	0.7%	6.8%
山本容子	375	182	150	13	3	27
	100.0%	48.5%	40.0%	3.5%	0.8%	7.2%

建物の部屋配置

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回 答
展覧会計	934	313	417	115	7	82
	100.0%	33.5%	44.6%	12.3%	0.7%	8.8%
スーラ	559	181	253	71	4	50
	100.0%	32.4%	45.3%	12.7%	0.7%	8.9%
山本容子	375	132	164	44	3	32
	100.0%	35.2%	43.7%	11.7%	0.8%	8.5%

館内の休憩場所

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回 答
展覧会計	934	358	411	86	8	71
	100.0%	38.3%	44.0%	9.2%	0.9%	7.6%
スーラ	559	203	257	52	4	43
	100.0%	36.3%	46.0%	9.3%	0.7%	7.7%
山本容子	375	155	154	34	4	28
	100.0%	41.3%	41.1%	9.1%	1.1%	7.5%

入館料

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	229	487	131	11	76
	100.0%	24.5%	52.1%	14.0%	1.2%	8.1%
スーラ	559	129	294	85	7	44
	100.0%	23.1%	52.6%	15.2%	1.3%	7.9%
山本容子	375	100	193	46	4	32
	100.0%	26.7%	51.5%	12.3%	1.1%	8.5%

職員の対応

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	400	421	35	4	74
	100.0%	42.8%	45.1%	3.7%	0.4%	7.9%
スーラ	559	240	249	21	3	46
	100.0%	42.9%	44.5%	3.8%	0.5%	8.2%
山本容子	375	160	172	14	1	28
	100.0%	42.7%	45.9%	3.7%	0.3%	7.5%

美術館への交通アクセス

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	210	357	253	26	88
	100.0%	22.5%	38.2%	27.1%	2.8%	9.4%
スーラ	559	129	209	152	16	53
	100.0%	23.1%	37.4%	27.2%	2.9%	9.5%
山本容子	375	81	148	101	10	35
	100.0%	21.6%	39.5%	26.9%	2.7%	9.3%

アートライブラリー

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	156	503	72	6	197
	100.0%	16.7%	53.9%	7.7%	0.6%	21.1%
スーラ	559	97	294	42	5	121
	100.0%	17.4%	52.6%	7.5%	0.9%	21.6%
山本容子	375	59	209	30	1	76
	100.0%	15.7%	55.7%	8.0%	0.3%	20.3%

ハイビジョンシアター

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	200	459	59	7	209
	100.0%	21.4%	49.1%	6.3%	0.7%	22.4%
スーラ	559	136	268	31	3	121
	100.0%	24.3%	47.9%	5.5%	0.5%	21.6%
山本容子	375	64	191	28	4	88
	100.0%	17.1%	50.9%	7.5%	1.1%	23.5%

美術館内のレストラン

	計	非常に よい満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	183	487	75	10	179
	100.0%	19.6%	52.1%	8.0%	1.1%	19.2%
スーラ	559	104	303	38	7	107
	100.0%	18.6%	54.2%	6.8%	1.3%	19.1%
山本容子	375	79	184	37	3	72
	100.0%	21.1%	49.1%	9.9%	0.8%	19.2%

美術館内のショップ

	計	非常に 満足 している	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回答
展覧会計	934	153	522	106	5	148
	100.0%	16.4%	55.9%	11.3%	0.5%	15.8%
スーラ	559	89	317	62	4	87
	100.0%	15.9%	56.7%	11.1%	0.7%	15.6%
山本容子	375	64	205	44	1	61
	100.0%	17.1%	54.7%	11.7%	0.3%	16.3%

ホール回答者(ホール問4)

	計	非常に よい、満足	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い、 強い 不満がある	無回 答
演目(演じられる作品)	400	172	169	11	0	48
	100.0%	43.0%	42.3%	2.8%	0.0%	12.0%
演奏、上演の質	400	179	158	10	0	53
	100.0%	44.8%	39.5%	2.5%	0.0%	13.3%
ホールの規模	400	170	160	28	1	41
	100.0%	42.5%	40.0%	7.0%	0.3%	10.3%
ホールの音響	400	151	169	25	1	54
	100.0%	37.8%	42.3%	6.3%	0.3%	13.5%
チケットの値段	400	142	177	34	5	42
	100.0%	35.5%	44.3%	8.5%	1.3%	10.5%
職員の対応、会場の雰囲気	400	178	163	15	1	43
	100.0%	44.5%	40.8%	3.8%	0.3%	10.8%
美術館へのアクセス	400	128	147	68	10	47
	100.0%	32.0%	36.8%	17.0%	2.5%	11.8%
美術館内のレストラン	400	76	163	64	6	91
	100.0%	19.0%	40.8%	16.0%	1.5%	22.8%
美術館内のショップ	400	58	197	75	1	69
	100.0%	14.5%	49.3%	18.8%	0.3%	17.3%

ホールの規模

	計	非常に 満足	やや よい	やや 悪い	不満 がある	非常に 悪い、 強い	無 回答
公演計	400	170	160	28	1	41	
	100.0%	42.5%	40.0%	7.0%	0.3%	10.3%	
アルディッティ	93	46	36	6	0	5	
	100.0%	49.5%	38.7%	6.5%	0.0%	5.4%	
カポエイラ	173	59	79	19	1	15	
	100.0%	34.1%	45.7%	11.0%	0.6%	8.7%	
映画	134	65	45	3	0	21	
	100.0%	48.5%	33.6%	2.2%	0.0%	15.7%	

ホールの音響

	計	非常に 満足	やや よい	やや 悪い	不満 がある	非常に 悪い、 強い	無 回答
公演計	400	151	169	25	1	54	
	100.0%	37.8%	42.3%	6.3%	0.3%	13.5%	
アルディッティ	93	39	35	7	0	12	
	100.0%	41.9%	37.6%	7.5%	0.0%	12.9%	
カポエイラ	173	60	82	12	0	19	
	100.0%	34.7%	47.4%	6.9%	0.0%	11.0%	
映画	134	52	52	6	1	23	
	100.0%	38.8%	38.8%	4.5%	0.7%	17.2%	

チケットの値段

	計	非常に よい満足 している	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い不 満がある	無回 答
公演計	400	142	177	34	5	42
	100.0%	35.5%	44.3%	8.5%	1.3%	10.5%
アルディッティ	93	33	49	5	1	5
	100.0%	35.5%	52.7%	5.4%	1.1%	5.4%
カボエイラ	173	59	73	22	4	15
	100.0%	34.1%	42.2%	12.7%	2.3%	8.7%
映画	134	50	55	7	0	22
	100.0%	37.3%	41.0%	5.2%	0.0%	16.4%

職員の対応、会場の雰囲気

	計	非常に よい満足 している	やや よい	やや 悪い	不 満がある	非常 に悪い 強い	無回 答
公演計	400	178	163	15	1	43	
	100.0%	44.5%	40.8%	3.8%	0.3%	10.8%	
アルディッティ	93	46	40	2	0	5	
	100.0%	49.5%	43.0%	2.2%	0.0%	5.4%	
カボエイラ	173	71	75	9	0	18	
	100.0%	41.0%	43.4%	5.2%	0.0%	10.4%	
映画	134	61	48	4	1	20	
	100.0%	45.5%	35.8%	3.0%	0.7%	14.9%	

美術館へのアクセス

	計	非常に よい	やや よい	やや 悪い	非常 に悪い 強い 不満 がある	無 回 答
公演計	400	128	147	68	10	47
	100.0%	32.0%	36.8%	17.0%	2.5%	11.8%
アルディッティ	93	27	41	18	3	4
	100.0%	29.0%	44.1%	19.4%	3.2%	4.3%
カポエイラ	173	58	61	28	6	20
	100.0%	33.5%	35.3%	16.2%	3.5%	11.6%
映画	134	43	45	22	1	23
	100.0%	32.1%	33.6%	16.4%	0.7%	17.2%

3. 美術館の評価

展覧会回答者(展覧会問7)

	計	そう 思う	やや そう 思う	あ まり そう は 思 わ な い	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
芸術文化の発信基地として意欲的に 事業を行っている	934	389	371	72	2	100
	100.0%	41.6%	39.7%	7.7%	0.2%	10.7%
さまざまな芸術分野を紹介する興味 深い場所である	934	420	352	58	2	102
	100.0%	45.0%	37.7%	6.2%	0.2%	10.9%
実験的・先駆的な活動を紹介する刺 激的な場所である	934	248	337	215	14	120
	100.0%	26.6%	36.1%	23.0%	1.5%	12.8%
生涯学習の場として重要な役割を担 っている	934	278	353	178	10	115
	100.0%	29.8%	37.8%	19.1%	1.1%	12.3%
県民の芸術への創作・参加意欲を刺 激する場所である	934	301	392	121	6	114
	100.0%	32.2%	42.0%	13.0%	0.6%	12.2%
地域の人々に広く親しまれている	934	170	398	230	14	122
	100.0%	18.2%	42.6%	24.6%	1.5%	13.1%
高知県全体にとっての誇りである	934	278	365	168	12	111
	100.0%	29.8%	39.1%	18.0%	1.3%	11.9%

芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている

	計	そう思う	う や や そう 思	は 思 わ な い	あ ま り そ う	思 わ な い	全 く そ う は	無 回 答
展覧会計	934	389	371	72	2			
	100.0%	41.6%	39.7%	7.7%	0.2%			10.7%
スーラ	559	235	223	41	2			
	100.0%	42.0%	39.9%	7.3%	0.4%			10.4%
山本容子	375	154	148	31	0			
	100.0%	41.1%	39.5%	8.3%	0.0%			11.2%

さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である

	計	そう思う	う や や そう 思	は 思 わ な い	あ ま り そ う	思 わ な い	全 く そ う は	無 回 答
展覧会計	934	420	352	58	2			
	100.0%	45.0%	37.7%	6.2%	0.2%			10.9%
スーラ	559	248	219	32	2			
	100.0%	44.4%	39.2%	5.7%	0.4%			10.4%
山本容子	375	172	133	26	0			
	100.0%	45.9%	35.5%	6.9%	0.0%			11.7%

実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である

	計	そう思う	う や や そう 思	は 思 わ な い	あ ま り そ う	思 わ な い	全 く そ う は	無 回 答
展覧会計	934	248	337	215	14			
	100.0%	26.6%	36.1%	23.0%	1.5%			12.8%
スーラ	559	146	200	138	8			
	100.0%	26.1%	35.8%	24.7%	1.4%			12.0%
山本容子	375	102	137	77	6			
	100.0%	27.2%	36.5%	20.5%	1.6%			14.1%

生涯学習の場として重要な役割を担っている

	計	そう思う	ややそう思う	は思わない	あまりそう	思わない	全くそうは	無回答
展覧会計	934	278	353	178	10	115		
	100.0%	29.8%	37.8%	19.1%	1.1%	12.3%		
スーラ	559	178	211	101	5	64		
	100.0%	31.8%	37.7%	18.1%	0.9%	11.4%		
山本容子	375	100	142	77	5	51		
	100.0%	26.7%	37.9%	20.5%	1.3%	13.6%		

県民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である

	計	そう思う	ややそう思う	は思わない	あまりそう	思わない	全くそうは	無回答
展覧会計	934	301	392	121	6	114		
	100.0%	32.2%	42.0%	13.0%	0.6%	12.2%		
スーラ	559	183	238	73	3	62		
	100.0%	32.7%	42.6%	13.1%	0.5%	11.1%		
山本容子	375	118	154	48	3	52		
	100.0%	31.5%	41.1%	12.8%	0.8%	13.9%		

地域の人々に広く親しまれている

	計	そう思う	ややそう思う	は思わない	あまりそう	思わない	全くそうは	無回答
展覧会計	934	170	398	230	14	122		
	100.0%	18.2%	42.6%	24.6%	1.5%	13.1%		
スーラ	559	109	243	134	8	65		
	100.0%	19.5%	43.5%	24.0%	1.4%	11.6%		
山本容子	375	61	155	96	6	57		
	100.0%	16.3%	41.3%	25.6%	1.6%	15.2%		

高知県全体にとっての誇りである

	計	そう思う	ややそう思う	は思わない	あまりそう	全くそうは 思わない	無回答
展覧会計	934	278	365	168	12	111	
	100.0%	29.8%	39.1%	18.0%	1.3%	11.9%	
スーラ	559	168	217	104	9	61	
	100.0%	30.1%	38.8%	18.6%	1.6%	10.9%	
山本容子	375	110	148	64	3	50	
	100.0%	29.3%	39.5%	17.1%	0.8%	13.3%	

ホール回答者(ホール問5)

	計	そう思う	ややそう 思う	は思わない	あまりそう	全くそうは 思わない	無回答
芸術文化の発信基地として意欲的に 事業を行っている	400	205	132	29	0	34	
	100.0%	51.3%	33.0%	7.3%	0.0%	8.5%	
さまざまな芸術分野を紹介する興味 深い場所である	400	219	113	31	1	36	
	100.0%	54.8%	28.3%	7.8%	0.3%	9.0%	
実験的・先駆的な活動を紹介する刺 激的な場所である	400	146	137	72	5	40	
	100.0%	36.5%	34.3%	18.0%	1.3%	10.0%	
生涯学習の場として重要な役割を担 っている	400	112	121	117	7	43	
	100.0%	28.0%	30.3%	29.3%	1.8%	10.8%	
市民の芸術への創作・参加意欲を刺 激する場所である	400	127	143	83	3	44	
	100.0%	31.8%	35.8%	20.8%	0.8%	11.0%	
地域の人々に広く親しまれている	400	80	144	123	10	43	
	100.0%	20.0%	36.0%	30.8%	2.5%	10.8%	
高知県全体にとっての誇りである	400	109	154	79	12	46	
	100.0%	27.3%	38.5%	19.8%	3.0%	11.5%	

芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている

	計	そう 思う	やや そう 思 う	は 思 わ な い	あ ま り そ う 思 う	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
公演計	400	205	132	29	0	34	
	100.0%	51.3%	33.0%	7.3%	0.0%	8.5%	
アルディッティ	93	53	35	2	0	3	
	100.0%	57.0%	37.6%	2.2%	0.0%	3.2%	
カポエイラ	173	75	61	24	0	13	
	100.0%	43.4%	35.3%	13.9%	0.0%	7.5%	
映画	134	77	36	3	0	18	
	100.0%	57.5%	26.9%	2.2%	0.0%	13.4%	

さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である

	計	そう 思う	やや そう 思 う	は 思 わ な い	あ ま り そ う 思 う	全 く そ う は 思 わ な い	無 回 答
公演計	400	219	113	31	1	36	
	100.0%	54.8%	28.3%	7.8%	0.3%	9.0%	
アルディッティ	93	58	25	6	0	4	
	100.0%	62.4%	26.9%	6.5%	0.0%	4.3%	
カポエイラ	173	89	49	21	1	13	
	100.0%	51.4%	28.3%	12.1%	0.6%	7.5%	
映画	134	72	39	4	0	19	
	100.0%	53.7%	29.1%	3.0%	0.0%	14.2%	

実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である

	計	そう思う	ややそう思う	あまりそう は思わない	全くそうは 思わない	無回答
公演計	400	146	137	72	5	40
	100.0%	36.5%	34.3%	18.0%	1.3%	10.0%
アルディッティ	93	38	34	16	0	5
	100.0%	40.9%	36.6%	17.2%	0.0%	5.4%
カボエイラ	173	63	58	34	4	14
	100.0%	36.4%	33.5%	19.7%	2.3%	8.1%
映画	134	45	45	22	1	21
	100.0%	33.6%	33.6%	16.4%	0.7%	15.7%

生涯学習の場として重要な役割を担っている

	計	そう思う	ややそう思う	あまりそう は思わない	全くそうは 思わない	無回答
公演計	400	112	121	117	7	43
	100.0%	28.0%	30.3%	29.3%	1.8%	10.8%
アルディッティ	93	26	35	27	0	5
	100.0%	28.0%	37.6%	29.0%	0.0%	5.4%
カボエイラ	173	46	48	60	4	15
	100.0%	26.6%	27.7%	34.7%	2.3%	8.7%
映画	134	40	38	30	3	23
	100.0%	29.9%	28.4%	22.4%	2.2%	17.2%

市民の芸術への創作/参加意欲を刺激する場所である

	計	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	全くそうとは思わない	無回答
公演計	400	127	143	83	3	44
	100.0%	31.8%	35.8%	20.8%	0.8%	11.0%
アルディッティ	93	32	31	22	1	7
	100.0%	34.4%	33.3%	23.7%	1.1%	7.5%
カボエイラ	173	52	62	42	2	15
	100.0%	30.1%	35.8%	24.3%	1.2%	8.7%
映画	134	43	50	19	0	22
	100.0%	32.1%	37.3%	14.2%	0.0%	16.4%

地域の人々に広く親しまれている

	計	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	全くそうとは思わない	無回答
公演計	400	80	144	123	10	43
	100.0%	20.0%	36.0%	30.8%	2.5%	10.8%
アルディッティ	93	23	38	27	1	4
	100.0%	24.7%	40.9%	29.0%	1.1%	4.3%
カボエイラ	173	34	63	54	7	15
	100.0%	19.7%	36.4%	31.2%	4.0%	8.7%
映画	134	23	43	42	2	24
	100.0%	17.2%	32.1%	31.3%	1.5%	17.9%

高知県全体にとっての誇りである

	計	そう思う	ややそう思う	あまりそう は思わない	全くそうは 思わない	無回答
公演計	400	109	154	79	12	46
	100.0%	27.3%	38.5%	19.8%	3.0%	11.5%
アルディッティ	93	28	45	13	2	5
	100.0%	30.1%	48.4%	14.0%	2.2%	5.4%
カポエイラ	173	46	58	44	8	17
	100.0%	26.6%	33.5%	25.4%	4.6%	9.8%
映画	134	35	51	22	2	24
	100.0%	26.1%	38.1%	16.4%	1.5%	17.9%

4. 美術館の影響（展覧会問4）

当館にいらっしやるうちに、あなたの芸術文化への関心度に変化はありましたか。

	計	もともと関心を持っていたが、それはさらに強くなった	もともと関心を持っていたが、その強さは特に変わらない	もともとは関心を持っていたが、それは弱くなった	もともと関心を持っていなかったが、関心を持つようになった	あまり関心を持っていなかったが、それは特に変わらない	あまり関心を持っていなかったし、それはさらに弱くなった	い	今回初めてなので、なんとも言えない	無回答
展覧会計	934	362	355	6	123	26	1	37	24	
	100.0%	38.8%	38.0%	0.6%	13.2%	2.8%	0.1%	4.0%	2.6%	
スーラ	559	221	221	3	68	15	1	21	9	
	100.0%	39.5%	39.5%	0.5%	12.2%	2.7%	0.2%	3.8%	1.6%	
山本容子	375	141	134	3	55	11	0	16	15	
	100.0%	37.6%	35.7%	0.8%	14.7%	2.9%	0.0%	4.3%	4.0%	

5. 今回の感想

今回の企画展 / 公演について、あなたは次のうちのどれにあてはまりますか。

展覧会回答者(展覧会問9)

	計	もともと美術に興味があり、今回も楽しめた	美術には興味があるが、今回の展示は楽しめなかった	あまり美術に興味はなかったが、今回は楽しめた	あまり美術に興味はなく、今回も楽しめなかった	その他	無回答
展覧会計	934	660	59	120	4	18	73
	100.0%	70.7%	6.3%	12.8%	0.4%	1.9%	7.8%
スーラ	559	409	33	69	2	9	37
	100.0%	73.2%	5.9%	12.3%	0.4%	1.6%	6.6%
山本容子	375	251	26	51	2	9	36
	100.0%	66.9%	6.9%	13.6%	0.5%	2.4%	9.6%

ホール回答者(ホール問9)

	計	もともと美術館が主催する舞台公演に興味があり、楽しめた	美術館が主催する舞台公演には興味があるが、今日の公演は楽しめなかった	美術館が主催する舞台公演には特に興味はなかったが、今日は楽しめた	美術館が主催する舞台公演には興味はなかったし、今日も楽しめなかった	その他	無回答
公演計	400	204	10	113	3	12	58
	100.0%	51.0%	2.5%	28.3%	0.8%	3.0%	14.5%
アルディッティ	93	32	1	48	3	0	9
	100.0%	34.4%	1.1%	51.6%	3.2%	0.0%	9.7%
カポエイラ	173	84	7	49	0	9	24
	100.0%	48.6%	4.0%	28.3%	0.0%	5.2%	13.9%
映画	134	88	2	16	0	3	25
	100.0%	65.7%	1.5%	11.9%	0.0%	2.2%	18.7%

6. 今回の来館影響 このような企画展、公演への今後の意向

当館で今後催される、他の企画展にも来たいと思いますか。 展覧会回答者(展覧会問 10)

	計	ぜひ来たい	あるう 多分来ないで	その他	無回答
展覧会計	934	754	43	71	66
	100.0%	80.7%	4.6%	7.6%	7.1%
スーラ	559	461	24	37	37
	100.0%	82.5%	4.3%	6.6%	6.6%
山本容子	375	293	19	34	29
	100.0%	78.1%	5.1%	9.1%	7.7%

このような公演 / 上映会が当ホール / 美術館で催されたら、再び来たいと思いますか。

ホール回答者(ホール問 10)

	計	ぜひ来たい	あるう 多分来ないで	その他	無回答
公演計	400	324	11	23	42
	100.0%	81.0%	2.8%	5.8%	10.5%
アルディッティ	93	76	4	7	6
	100.0%	81.7%	4.3%	7.5%	6.5%
カボエイラ	173	147	6	5	15
	100.0%	85.0%	3.5%	2.9%	8.7%
映画	134	101	1	11	21
	100.0%	75.4%	0.7%	8.2%	15.7%

7. 今回の訪問のきっかけ

(1) 情報経路 (MA)

今回の企画展 / 公演 / 上映会について何でお知りになりましたか(いくつでも可)。また、複数の回答にまるをつけた方は、その中でもっとも直接的なきっかけとなったものにつけて下さい。

展覧会回答者(展覧会問8、回答はいくつでも可、%は N=934 に対する比率)

問8

	ポスター	チラシ	新聞記事 (広告除く)	高知新聞広告	美術館ニュース	美術館ホームページ	テレビニュース	ラジオ	雑誌情報誌	知人友人から聞いて	さんぽ高知	美術館からの案内状	その他	無回答
展覧会計	209	98	181	95	85	41	183	9	42	186	31	33	88	2
	22.4%	10.5%	19.4%	10.2%	9.1%	4.4%	19.6%	1.0%	4.5%	19.9%	3.3%	3.5%	9.4%	0.2%
スーラ	151	51	95	60	50	19	96	7	25	120	22	23	65	2
	27.0%	9.1%	17.0%	10.7%	8.9%	3.4%	17.2%	1.3%	4.5%	21.5%	3.9%	4.1%	11.6%	0.4%
山本容子	58	47	86	35	35	21	87	2	17	66	9	10	23	0
	15.5%	12.5%	22.9%	9.3%	9.3%	5.6%	23.2%	0.5%	4.5%	17.6%	2.4%	2.7%	6.1%	0.0%

ホール回答者(ホール問8、回答はいくつでも可、%は N=400 に対する比率)

	ポスター	チラシ	新聞記事 (広告を除く)	高知新聞広告	美術館ニュース	美術館ホームページ	テレビニュース	ラジオ	雑誌情報誌	知人友人から聞いて	さんぽ高知	美術館からの案内状	その他	無回答
公演計	98	118	39	41	45	11	15	1	20	85	3	69	26	7
	24.5%	29.5%	9.8%	10.3%	11.3%	2.8%	3.8%	0.3%	5.0%	21.3%	0.8%	17.3%	6.5%	1.8%
アルディッティ	21	28	16	17	15	2	2	0	4	20	1	19	1	5
	22.6%	30.1%	17.2%	18.3%	16.1%	2.2%	2.2%	0.0%	4.3%	21.5%	1.1%	20.4%	1.1%	5.4%
カポエイラ	44	38	14	12	8	4	10	0	10	54	1	26	20	0
	25.4%	22.0%	8.1%	6.9%	4.6%	2.3%	5.8%	0.0%	5.8%	31.2%	0.6%	15.0%	11.6%	0.0%
映画	33	52	9	12	22	5	3	1	6	11	1	24	5	2
	24.6%	38.8%	6.7%	9.0%	16.4%	3.7%	2.2%	0.7%	4.5%	8.2%	0.7%	17.9%	3.7%	1.5%

(2) もっとも直接的なきっかけ

展覧会回答者(展覧会問8、回答は1つのみ)

	ポスター	チラシ	新聞記事 (広告除く)	高知新聞 広告	美術館 コース	美術館 ホームページ	テレビ ニュース	ラジオ	雑誌 情報誌	知人友人 から聞いて	さん SUN高知	美術館 からの案内 状	その他	無回答
展覧会計	46	27	46	16	20	16	48	6	14	64	4	9	25	11
	4.9%	2.9%	4.9%	1.7%	2.1%	1.7%	5.1%	0.6%	1.5%	6.9%	0.4%	1.0%	2.7%	1.2%
スーラ	19	4	7	5	5	3	12	0	3	12	1	4	3	11
	3.4%	0.7%	1.3%	0.9%	0.9%	0.5%	2.1%	0.0%	0.5%	2.1%	0.2%	0.7%	0.5%	2.0%
山本容子	27	23	39	11	15	13	36	0	11	52	3	5	22	0
	7.2%	6.1%	10.4%	2.9%	4.0%	3.5%	9.6%	0.0%	2.9%	13.9%	0.8%	1.3%	5.9%	0.0%

ホール回答者(ホール問8、回答は一つのみ)

	ポスター	チラシ	新聞記事 (広告を除く)	高知新聞 広告	美術館 コース	美術館 ホームページ	テレビ ニュース	ラジオ	雑誌 情報誌	知人友人 から聞いて	さん SUN高知	美術館 からの案内 状	その他	無回答
公演計	10	19	1	4	6	0	0	0	3	5	0	7	4	25
	2.5%	4.8%	0.3%	1.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.3%	0.0%	1.8%	1.0%	6.3%
アルディッティ	3	7	1	2	0	0	0	0	1	2	0	5	0	8
	3.2%	7.5%	1.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%	0.0%	5.4%	0.0%	8.6%
カポエイラ	6	5	0	1	2	0	0	0	2	3	0	1	3	9
	3.5%	2.9%	0.0%	0.6%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	1.7%	0.0%	0.6%	1.7%	5.2%
映画	1	7	0	1	4	0	0	0	0	0	0	1	1	8
	0.7%	5.2%	0.0%	0.7%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%	5.9%

8. 今後の意向・希望

(1) 企画内容

展覧会回答者（展覧会問 11、回答は2つまで、%はN=934 に対する比率）

	さまざまなジャンル 画の美術を 紹介して欲しい	現代的、前衛的な内容のアートを 紹介する展覧会を増やして欲しい	より著名な作家 作品を紹介する 展覧会を増やして欲しい	高知県民の文化活動を 紹介する 場所になつて欲しい	その他	無回答
展覧会計	690	179	441	145	31	1
	73.9%	19.2%	47.2%	15.5%	3.3%	0.1%
スーラ	422	100	266	80	19	1
	75.5%	17.9%	47.6%	14.3%	3.4%	0.2%
山本容子	268	79	175	65	12	0
	71.5%	21.1%	46.7%	17.3%	3.2%	0.0%

ホール回答者（ホール問 11、回答は2つまで、%はN = 400 に対する比率）

	さまざまなジャンル 画の美術を 紹介して欲しい	実験的、先駆的な公演を増やし て欲しい	評価の定まった作品 作家の活 動を増やして欲しい	わかりやすく、誰もが楽しめる よつな作品を増やして欲しい	高知県民の文化活動を 紹介する 公演を増やして欲しい	その他	無回答
公演計	289	157	81	102	19	14	5
	72.3%	39.3%	20.3%	25.5%	4.8%	3.5%	1.3%
アルディッティ	63	48	27	21	6	1	5
	67.7%	51.6%	29.0%	22.6%	6.5%	1.1%	5.4%
カボエイラ	131	73	19	53	8	7	0
	75.7%	42.2%	11.0%	30.6%	4.6%	4.0%	0.0%
映画	95	36	35	28	5	6	0
	70.9%	26.9%	26.1%	20.9%	3.7%	4.5%	0.0%

(2) 公演付随サービスへの希望

展覧会回答者(展覧会問 12、回答は2つまで)

	展覧会に関連したレクチャーや ギャラリートーク	展覧会の解説パンフレットガイ ド	親子で参加できるような企画	創作講座	その他	特に何も無い	無回答
展覧会計	433	269	123	317	16	104	4
	46.4%	28.8%	13.2%	33.9%	1.7%	11.1%	0.4%
スーラ	239	179	70	172	10	66	4
	42.8%	32.0%	12.5%	30.8%	1.8%	11.8%	0.7%
山本容子	194	90	53	145	6	38	0
	51.7%	24.0%	14.1%	38.7%	1.6%	10.1%	0.0%

ホール回答者(ホール問 12)

	計	はい	いいえ	無回答
公演に付随した解説の時間、ディス カッションの機会	400	218	121	61
	100.0%	54.5%	30.3%	15.3%
アーティストや制作者たちと交流する 機会	400	270	67	63
	100.0%	67.5%	16.8%	15.8%

公演に付随した解説の時間、ディスカッションの機会

	計	はい	いいえ	無回答
公演計	400	218	121	61
	100.0%	54.5%	30.3%	15.3%
アルディッティ	93	61	18	14
	100.0%	65.6%	19.4%	15.1%
カポエイラ	173	101	51	21
	100.0%	58.4%	29.5%	12.1%
映画	134	56	52	26
	100.0%	41.8%	38.8%	19.4%

アーティストや制作者たちと交流する機会

	計	はい	いいえ	無回答
公演計	400	270	67	63
	100.0%	67.5%	16.8%	15.8%
アルディッティ	93	67	10	16
	100.0%	72.0%	10.8%	17.2%
カポエイラ	173	124	26	23
	100.0%	71.7%	15.0%	13.3%
映画	134	79	31	24
	100.0%	59.0%	23.1%	17.9%

9. 回答者属性

(1) 展覧会回答者

性別

	計	男	女	無回答
展覧会計	934	269	616	49
	100.0%	28.8%	66.0%	5.2%
スーラ	559	184	347	28
	100.0%	32.9%	62.1%	5.0%
山本容子	375	85	269	21
	100.0%	22.7%	71.7%	5.6%

美術館友の会

	計	会員	非会員	無回答
展覧会計	934	28	834	72
	100.0%	3.0%	89.3%	7.7%
スーラ	559	22	490	47
	100.0%	3.9%	87.7%	8.4%
山本容子	375	6	344	25
	100.0%	1.6%	91.7%	6.7%

年齢

	計	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
展覧会計	934	88	151	202	146	149	103	44	51
	100.0%	9.4%	16.2%	21.6%	15.6%	16.0%	11.0%	4.7%	5.5%
スーラ	559	51	88	113	86	88	73	32	28
	100.0%	9.1%	15.7%	20.2%	15.4%	15.7%	13.1%	5.7%	5.0%
山本容子	375	37	63	89	60	61	30	12	23
	100.0%	9.9%	16.8%	23.7%	16.0%	16.3%	8.0%	3.2%	6.1%

職業

	計	会社員	契約社員	会社役員	公務員	団体職員 役員	自営業	自由業 フリー	アルバイト パート	学生	専業主婦	無職 家事手伝い	退職者	その他	無回答
展覧会計	934	203	17	13	142	31	54	20	42	119	115	29	52	44	53
	100.0%	21.7%	1.8%	1.4%	15.2%	3.3%	5.8%	2.1%	4.5%	12.7%	12.3%	3.1%	5.6%	4.7%	5.7%
スーラ	559	126	9	8	78	18	32	13	22	70	70	21	32	28	32
	100.0%	22.5%	1.6%	1.4%	14.0%	3.2%	5.7%	2.3%	3.9%	12.5%	12.5%	3.8%	5.7%	5.0%	5.7%
山本容子	375	77	8	5	64	13	22	7	20	49	45	8	20	16	21
	100.0%	20.5%	2.1%	1.3%	17.1%	3.5%	5.9%	1.9%	5.3%	13.1%	12.0%	2.1%	5.3%	4.3%	5.6%

美術館までの所用時間(片道、自宅あるいは職場から)

	計	5分以内	6~10分	11~15分	16~20分	21分以上	無回答
展覧会計	934	118	278	205	62	193	78
	100.0%	12.6%	29.8%	21.9%	6.6%	20.7%	8.4%
スーラ	559	76	172	126	29	111	45
	100.0%	13.6%	30.8%	22.5%	5.2%	19.9%	8.1%
山本容子	375	42	106	79	33	82	33
	100.0%	11.2%	28.3%	21.1%	8.8%	21.9%	8.8%

(2) ホール回答者

性別

	計	男	女	無回答
公演計	400	136	241	23
	100.0%	34.0%	60.3%	5.8%
アルディッティ	93	36	56	1
	100.0%	38.7%	60.2%	1.1%
カボエイラ	173	64	98	11
	100.0%	37.0%	56.6%	6.4%
映画	134	36	87	11
	100.0%	26.9%	64.9%	8.2%

美術館友の会

	計	会員	非会員	無回答
公演計	400	14	354	32
	100.0%	3.5%	88.5%	8.0%
アルディッティ	93	5	84	4
	100.0%	5.4%	90.3%	4.3%
カボエイラ	173	6	154	13
	100.0%	3.5%	89.0%	7.5%
映画	134	3	116	15
	100.0%	2.2%	86.6%	11.2%

年齢

	計	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
公演計	400	39	138	83	54	32	17	9	28
	100.0%	9.8%	34.5%	20.8%	13.5%	8.0%	4.3%	2.3%	7.0%
アルディッティ	93	2	20	21	19	16	9	4	2
	100.0%	2.2%	21.5%	22.6%	20.4%	17.2%	9.7%	4.3%	2.2%
カポエイラ	173	19	78	36	17	8	3	0	12
	100.0%	11.0%	45.1%	20.8%	9.8%	4.6%	1.7%	0.0%	6.9%
映画	134	18	40	26	18	8	5	5	14
	100.0%	13.4%	29.9%	19.4%	13.4%	6.0%	3.7%	3.7%	10.4%

職業

	計	会社員	契約社員	会社役員	公務員	団体職員 役員	自営業	自由業 フリー	アルバイト パート	学生	専業主婦	無職 家事手伝い	退職者	その他	無回答
公演計	400	97	4	3	63	7	19	16	28	71	24	16	10	13	29
	100.0%	24.3%	1.0%	0.8%	15.8%	1.8%	4.8%	4.0%	7.0%	17.8%	6.0%	4.0%	2.5%	3.3%	7.3%
アルディッティ	93	26	1	1	18	3	2	3	6	8	9	4	4	3	5
	100.0%	28.0%	1.1%	1.1%	19.4%	3.2%	2.2%	3.2%	6.5%	8.6%	9.7%	4.3%	4.3%	3.2%	5.4%
カポエイラ	173	50	2	2	27	3	10	6	10	31	3	6	2	9	12
	100.0%	28.9%	1.2%	1.2%	15.6%	1.7%	5.8%	3.5%	5.8%	17.9%	1.7%	3.5%	1.2%	5.2%	6.9%
映画	134	21	1	0	18	1	7	7	12	32	12	6	4	1	12
	100.0%	15.7%	0.7%	0.0%	13.4%	0.7%	5.2%	5.2%	9.0%	23.9%	9.0%	4.5%	3.0%	0.7%	9.0%

美術館までの所用時間(片道、自宅あるいは職場から)

	計	5分以内	10～30分	31～60分	61～90分	9分以上	無回答
公演計	400	89	131	87	21	37	35
	100.0%	22.3%	32.8%	21.8%	5.3%	9.3%	8.8%
アルディッティ	93	22	32	15	6	13	5
	100.0%	23.7%	34.4%	16.1%	6.5%	14.0%	5.4%
カボエイラ	173	43	58	42	5	9	16
	100.0%	24.9%	33.5%	24.3%	2.9%	5.2%	9.2%
映画	134	24	41	30	10	15	14
	100.0%	17.9%	30.6%	22.4%	7.5%	11.2%	10.4%

アンケート調査へのご協力のお願い（展覧会）

本日は、高知県立美術館におこしくださしましてありがとうございます。当美術館では、芸術文化の発信基地として益々の充実をはかるため、皆様のご意見をお聞かせいただきたくアンケート調査を行ってまいりました。今年度は、開館後9年を経た美術館活動について、これまでよりも詳細にわたりお伺いし、今後の活動の充実に役立たせていただきたいと思います。ご記入頂きました回答は数値処理され、皆様にご迷惑をおかけするようなことはございませんので、どうぞ調査へのご協力をお願いいたします。ご回答いただきました方の中から、抽選で次回企画展の招待券をペアで20組の方にお送りいたします。

【アンケートご記入の際のお願い】

回答は、ご本人様がお答え下さい。また、ご記入漏れがありませんよう、ご注意をお願いいたします。

問1 当館の企画展には、これまでに何回ぐらいいらしたことがありますか。該当する答え1つにまるをつけて下さい。

- a. 今回が初めて
- b. 2～5回
- c. 6～10回
- d. 11～20回
- e. 21回以上（具体的に 回ぐらい）

問2 あなたは、当館以外の美術館、美術展に、年に何回ぐらい行きますか。

- a. 全くない
- b. 年に1～3回程度
- c. 年に4～6回程度
- d. 年に7回以上（具体的に 回ぐらい）

問3 当美術館ホールの主催公演（音楽、舞踊、映画など）には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 全くない
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に ）

問4 当館にいらっしゃるうちに、あなたの芸術文化への関心度に変化はありましたか。

- a. もともと関心を持っていたが、それはさらに強くなった
- b. もともと関心を持っていたが、その強さは特に変わらない
- c. もともとは関心を持っていたが、それは弱くなった
- d. あまり関心を持っていなかったが、関心を持つようになった
- e. あまり関心を持っていなかったし、それは特に変わらない
- f. あまり関心を持っていなかったし、それはさらに弱くなった
- g. 今回初めてなので、何とも言えない

問5 展覧会に関して、あなたはどのような意見をお持ちですか。各文に対するあなたの考えにもっとも近い番号にまるをつけて下さい。個々の企画展、常設展により違う意見をお持ちの場合には、総合してお答え下さい。また、今回初めての方は、ご覧になった展覧会についてお答え下さい。

	そのとおりだ と思う	ややそのとお りだと思う	あまりそうは 思わない	全くそうは思 わない
a. 展覧会のテーマは全体に興味深い	1	2	3	4
b. 展示内容はわかりやすく説明されている	1	2	3	4
c. 美術展は子供も楽しめるものであると思う	1	2	3	4
d. 年間を通してさまざまな企画展があり興味深い	1	2	3	4

問6 美術館施設について、以下の項目に満足していますか。各項目について、あなたの意見にもっとも近いものを一つ選び数字にまるをつけて下さい。

	非常によい、満足 している	ややよい	やや悪い	非常に悪い、強い 不満がある
a. 照明などを含めた館全体の雰囲気	1	2	3	4
b. 建物の部屋配置	1	2	3	4
c. 館内の休憩場所	1	2	3	4
d. 入館料	1	2	3	4
e. 職員の対応	1	2	3	4
f. 美術館への交通アクセス	1	2	3	4
g. アートライブラリー	1	2	3	4
h. ハイビジョンシアター	1	2	3	4
i. 美術館内のレストラン	1	2	3	4
j. 美術館内のショップ	1	2	3	4

問7 高知県立美術館に関する次の各文に対して、あなたはどう思いますか。答えを1～4のうちから一つを選び、番号にまるをつけて下さい。

	そう思う	ややそう思 う	あまりそう は思わない	全くそうは 思わない
a. 芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている	1	2	3	4
b. さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である	1	2	3	4
c. 実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である	1	2	3	4
d. 生涯学習の場として重要な役割を担っている	1	2	3	4
e. 県民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である	1	2	3	4
f. 地域の人々に広く親しまれている	1	2	3	4
g. 高知県全体にとっての誇りである	1	2	3	4

問8 今回の企画展について何でお知りになりましたか(いくつでも可)。また、複数の回答にまるをつけた方は、その中でももっとも直接的なきっかけとなったものに をつけて下さい。

- a.ポスター b.チラシ c.新聞記事(広告を除く) d.高知新聞広告 e.美術館ニュース f.美術館ホームページ g.テレビニュース h.ラジオ i.雑誌・情報誌 j.知人・友人からきいて
k.さんSUN高知 l.美術館からの案内状 m.その他(具体的に)

問9 今回の企画展について、あなたは次のうちのどれにあてはまりますか。

- a. 元々美術に興味があり、今回も楽しめた
b. 美術には興味があるが、今回の展示は楽しめなかった
c. あまり美術に興味はなかったが、今回は楽しめた
d. あまり美術に興味はなく、今回も楽しめなかった
e. その他(具体的に)

問10 当館で今後催される、他の企画展にも来たいと思いますか。

- a. ぜひ来たい
b. 多分来ないであろう
c. その他(具体的に)

問11 今後、美術館の企画内容にどのようなことを望みますか。強く望むものを2つまで選び、まるをつけて下さい。

- a. さまざまなジャンル・国の美術を紹介して欲しい
b. 現代的、前衛的な内容のアートを紹介する展覧会を増やして欲しい
c. より著名な作家・作品を紹介する展覧会を増やして欲しい
d. 高知県民の文化活動を紹介する場所になって欲しい
e. その他(具体的に)

問12 次のような活動の中から、あなたが参加・利用してみたいと思うものを、2つまで選びまるをつけて下さい。

- a. 展覧会に関連したレクチャーやギャラリートーク
b. 展覧会の解説パンフレット・ガイド
c. 親子で参加できるような企画
d. 創作講座
e. その他(具体的に)
f. 特に何も無い

その他、美術館活動について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

最後にあなた自身のことについてお伺いします

1. 性別 a. 男 b. 女
2. 当館友の会の会員ですか a. 会員 b. 非会員
3. 年齢 a.20歳未満 b.20代 c.30代 d.40代 e.50代 f.60代 g.70歳以上
4. 職業
a.会社員 b.契約社員 c.会社役員 d.公務員 e.団体職員・役員
f.自営業 g.自由業・フリー h.アルバイト、パート i.学生 j.専業主婦
k.無職・家事手伝い l.退職者 m.その他（具体的に)
5. 自宅（あるいは職場）から当美術館まで片道どれくらいの時間をかけていらっしゃいますか。
a.15分以内 b.16～30分 c.31～60分 d.61～90分 e.91分以上（具体的に 分）

なお、ご回答頂いた方の中から、さらに、何名かのグループで詳しくご意見・ご感想を伺いたいと考えております。お名前と連絡先をご記入いただきました方には、後日、美術館よりご連絡させていただくかもしれません。その際には、趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。この「グループ・インタビュー」にご協力いただいた方々には、美術館より記念品を差し上げます。

お名前

ご連絡先住所

昼間の電話番号

メールアドレス

ご協力ありがとうございました。記入済みのアンケート票は、ホワイエのアンケート・ボックスにお入れ下さい。郵送、ファックス、電子メールでのご回答も承りますが、その際には、本日より1週間以内をお願いいたします。

〒781-8123 高知市高須 353-2 高知県立美術館

電話 088-866-8000, ファックス 088-866-8008 email: museum@tosa.net-kochi.gr.jp

アンケート調査へのご協力をお願い（音楽）

2002年6月9日

本日は、美術館主催行事におこしくださしましてありがとうございます。当美術館では、芸術文化の発信基地として益々の充実をはかるため、皆様のご意見をお聞かせいただきたくアンケート調査を行ってまいりました。今年度は、開館後9年を経た美術館活動について、これまでよりも詳細にわたりお伺いし、今後の活動の充実に役立たせていただきたいと思います。ご記入頂きました回答は数値処理され、皆様にご迷惑をおかけするようなことはございませんので、どうぞ調査へのご協力をお願いいたします。

【アンケートご記入の際のお願い】

回答は、ご本人様がお答え下さい。また、ご記入漏れがありませんよう、ご注意をお願いいたします。

問1 当美術館ホールでの主催公演（音楽、舞踊、映画など）には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。該当する答えに1つだけまるをつけて下さい。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問2 美術館ホールでの公演のうち、コンサートには、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問3 あなたは、この美術館ホール以外の場所でのコンサートに、年に何回ぐらい行きますか。

- a. 全くない
- b. 年に1～3回程度
- c. 年に4～6回程度
- d. 年に7回以上（具体的に 回ぐらい）

問4 美術館ホール主催行事及び当施設について、以下の項目に満足していますか。各項目について、あなたの意見にもっとも近いものを一つ選び数字にまるをつけて下さい。今回の公演以外にもいらしたことがある方は、演劇、音楽などのジャンルにこだわらずこれまでの経験を総合してお答え下さい。

	非常によい、満足している	ややよい	やや悪い	非常に悪い、強い不満がある
a. 演目（演じられる作品）	1	2	3	4
b. 演奏、上演の質	1	2	3	4
c. ホールの規模	1	2	3	4
d. ホールの音響	1	2	3	4
e. チケットの値段	1	2	3	4
f. 職員の対応、会場の雰囲気	1	2	3	4
g. 美術館へのアクセス	1	2	3	4
h. 美術館内のレストラン	1	2	3	4
i. 美術館内のショップ	1	2	3	4

問5 高知県立美術館に関する次の各文に対して、あなたはどのように思いますか。答えを1～4のうちから一つを選び、番号にまるをつけて下さい。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう は思わない	全くそう は思わない
a. 芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている	1	2	3	4
b. さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である	1	2	3	4
c. 実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である	1	2	3	4
d. 生涯学習の場として重要な役割を担っている	1	2	3	4
e. 市民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である	1	2	3	4
f. 地域の人々に広く親しまれている	1	2	3	4
g. 高知県全体にとっての誇りである	1	2	3	4

問6 これまで高知県立美術館で催されている美術展には何度ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 全くない
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問7 問6で b~d とお答えになった方にのみ伺います。美術展部門に関して、あなたは以下の記述に対してどのような意見をお持ちですか。各文に対するあなたの意見にもっとも近い番号にまるをつけて下さい。個々の企画展、常設展により違う意見をお持ちの場合には、総合してお答え下さい。

	そのとおりだ と思う	ややそのと お りだと思 う	あまりそう は 思 わ な い	全くそう は 思 わ な い
a. 美術展のテーマは全体に興味深い	1	2	3	4
b. 美術展の内容は全体にわかりやすい	1	2	3	4
c. 美術展は子供も楽しめるものであると思う	1	2	3	4
d. 美術館の建物内部は歩き回っていてわかりやすい	1	2	3	4

問8 今回の公演について何でお知りになりましたか(いくつでも可)。また、複数の回答にまるをつけた方は、その中でももっとも直接的なきっかけとなったものに をつけて下さい。

- a.ポスター b.チラシ c.新聞記事(広告を除く) d.高知新聞広告 e.美術館ニュース f.美術館ホームページ g.テレビニュース h.ラジオ i.雑誌・情報誌 j.知人・友人からきいて k.さん SUN 高知 l.美術館からの案内状 m.その他(具体的に)

問9 現代音楽を中心とする今回の公演について、あなたは次のうちのどれにあてはまりますか。

- a. 元々現代音楽に興味があり、楽しめた
b. 現代音楽には興味があるが、今日の公演は楽しめなかった
c. あまり現代音楽のことは知らなかったが、楽しめた
d. 現代音楽は難しく、楽しめなかった
e. その他(具体的に)

問10 このような公演が当ホールで催されたら、再び来たいと思いますか。

- a. ぜひ来たい
b. 多分来ないであろう
c. その他(具体的に)

問11 今後、美術館ホールの公演内容にどのようなことを望みますか。強く望むものを2つまで選び、まるをつけて下さい。

- a. さまざまなジャンル・国の芸術を紹介して欲しい
b. 実験的、先駆的な公演を増やして欲しい
c. 評価の定まった作品・作家の活動を増やして欲しい
d. わかりやすく、誰もが楽しめるような作品を増やして欲しい
d. 高知県民の文化活動を紹介する公演を増やして欲しい
e. その他(具体的に)

問 12 美術館ホールの公演に付随して、あなたは次のような機会があったらよいと思いますか。あなたの意見を表す番号にまるをつけて下さい。

	はい	いいえ
a. 公演に付随した解説の時間、ディスカッションの機会	1	2
b. アーティストや制作者たちと交流する機会	1	2

その他に、このような付随サービスがあったらよい、というものがあれば具体的に書き下して下さい。

美術館活動全般について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

最後にあなた自身のことについてお伺いします。

1. 性別 a. 男 b. 女
2. 当美術館の友の会の会員ですか a. 会員 b. 非会員
3. 年齢 a. 20歳未満 b. 20代 c. 30代 d. 40代 e. 50代 f. 60代 g. 70歳以上
4. 職業
a. 会社員 b. 契約社員 c. 会社役員 d. 公務員・団体職員 e. 公務・団体役員
f. 自営業 g. 自由業・フリー h. アルバイト、パート i. 学生 j. 専業主婦
k. 無職・家事手伝い l. 退職者 m. その他（具体的に ）
5. 自宅（あるいは職場）から当美術館まで片道どれくらいの時間をかけていらっしゃいますか。
a. 15分以内 b. 16～30分 c. 31～60分 d. 61～90分 e. 91分以上（具体的に 分）

なお、ご回答頂いた方の中から、さらに、何名かのグループで詳しくご意見・ご感想を伺いたいとも考えております。お名前と連絡先をご記入いただきました方には、後日、美術館よりご連絡させていただくかもしれません。その際には、趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。この「グループ・インタビュー」にご協力いただいた方々には、美術館より記念品を差し上げます。

お名前

ご連絡先住所

昼間の電話番号

メールアドレス

ご協力ありがとうございました。記入済みのアンケート票は、ホワイエのアンケート・ボックスにお入れ下さい。郵送、ファックス、電子メールでのご回答も承りますが、その際には、本日より1週間以内をお願いいたします。

〒781-8123 高知市高須 353-2 高知県立美術館

電話 088-866-8000, ファックス 088-866-8008 email: museum@tosa.net-kochi.gr.jp

アンケート調査へのご協力のお願い（映画）

2002年8月

本日は、美術館主催行事におこしくださしましてありがとうございます。当美術館では、芸術文化の発信基地として益々の充実をはかるため、皆様のご意見をお聞かせいただきたくアンケート調査を行ってまいりました。今年度は、開館後9年を経た美術館活動について、これまでよりも詳細にわたりお伺いし、今後の活動の充実に役立たせていただきたいと思います。ご記入頂きました回答は数値処理され、皆様にご迷惑をおかけするようなことはございませんので、どうぞ調査へのご協力をお願いいたします。

【アンケートご記入の際のお願い】

回答は、ご本人様がお答え下さい。また、ご記入漏れがありませんよう、ご注意をお願いいたします。

問1 当美術館での主催公演（美術展を除く、音楽・舞踊公演、映画上映など）には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。該当する答えに1つだけまるをつけて下さい。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問2 美術館での公演のうち、映画上映会には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問3 あなたは、この美術館以外の場所で催される映画上映（映画館、文化ホールや図書館などでの映画上映会）に、年に何回ぐらい行きますか。

- a. 全くない
- b. 年に1～3回程度
- c. 年に4～6回程度
- d. 年に7回以上（具体的に 回ぐらい）

問4 美術館主催公演・映画上映会及び当施設について、以下の項目に満足していますか。各項目について、あなたの意見にもっとも近いものを一つ選び数字にまるをつけて下さい。今回の上映会以外にもいらしたことがある方は、演劇、音楽などのジャンルにこだわらず今までの経験を総合してお答え下さい。

	非常によい、満足している	ややよい	やや悪い	非常に悪い、強い不満がある
a. 演目（演じられる作品）	1	2	3	4
b. 演奏、上演の質	1	2	3	4
c. ホールの規模	1	2	3	4
d. ホールの音響	1	2	3	4
e. チケットの値段	1	2	3	4
f. 職員の対応、会場の雰囲気	1	2	3	4
g. 美術館へのアクセス	1	2	3	4
h. 美術館内のレストラン	1	2	3	4
i. 美術館内のショップ	1	2	3	4

問5 高知県立美術館に関する次の各文に対して、あなたはどのように思いますか。答えを1～4のうちから一つを選び、番号にまるをつけて下さい。

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	全くそうは思わない
a. 芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている	1	2	3	4
b. さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である	1	2	3	4
c. 実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である	1	2	3	4
d. 生涯学習の場として重要な役割を担っている	1	2	3	4
e. 市民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である	1	2	3	4
f. 地域の人々に広く親しまれている	1	2	3	4
g. 高知県全体にとっての誇りである	1	2	3	4

問6 これまで高知県立美術館で催されている美術展には何度ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 全くない
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問7 問6で b~d とお答えになった方にのみ伺います。美術展部門に関して、あなたは以下の記述に対してどのような意見をお持ちですか。各文に対するあなたの意見にもっとも近い番号にまるをつけて下さい。個々の企画展、常設展により違う意見をお持ちの場合には、総合してお答え下さい。

	そのとおりだ と思う	ややそのとお りだと思う	あまりそうは 思わない	全くそうは思 わない
a. 美術展のテーマは全体に興味深い	1	2	3	4
b. 美術展の内容は全体にわかりやすい	1	2	3	4
c. 美術展は子供も楽しめるものであると思う	1	2	3	4
d. 美術館の建物内部は歩き回っていてわかりやすい	1	2	3	4

問8 今回の上映会について何でお知りになりましたか(いくつでも可)。また、複数の回答にまるをつけた方は、その中でももっとも直接的なきっかけとなったものに をつけて下さい。

- a.ポスター b.チラシ c.新聞記事(広告を除く) d.高知新聞広告 e.美術館ニュース f.美術館ホームページ g.テレビニュース h.ラジオ i.雑誌・情報誌 j.知人・友人からきいて k.さん SUN 高知 l.美術館からの案内状 m.その他(具体的に)

問9 今回の上映会について、あなたは次のうちのどれにあてはまりますか。

- a. 元々美術館が主催する上映会に興味があり、今日も楽しめた
b. 美術館が主催する上映会には興味があるが、今日は楽しめなかった
c. 美術館が主催する上映会には特に興味がなかったが、今日は楽しめた
d. 美術館が主催する上映会には興味がなかったし、今日も楽しめなかった
e. その他(具体的に)

問10 このような上映会が当美術館で催されたら、再び来たいと思いますか。

- a. ぜひ来たい
b. 多分来ないであろう
c. その他(具体的に)

問11 今後、当美術館で上映される映画の内容にどのようなことを望みますか。強く望むものを2つまで選び、まるをつけて下さい。

- a. さまざまなジャンル・国の作品を紹介して欲しい
b. 実験的、先駆的な作品を増やして欲しい
c. 古典的な作品、著名な監督の作品を増やして欲しい
d. わかりやすく、誰もが楽しめるような作品を増やして欲しい
d. 高知県にゆかりのある映画関係者の作品を増やして欲しい
e. その他(具体的に)

問 12 美術館での映画上映に付随して、あなたは次のような機会があったらよいと思いますか。あなたの意見を表す番号にまるをつけて下さい。

	はい	いいえ
a.上映に付随した解説の時間、ディスカッションの機会	1	2
b.アーティストや制作者たちと交流する機会	1	2

その他に、このような付随サービスがあったらよい、というものがあれば具体的に書き下して下さい。

美術館活動全般について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

最後にあなた自身のことについてお伺いします。

1. 性別 a. 男 b. 女
2. 当美術館の友の会の会員ですか a. 会員 b. 非会員
3. 年齢 a.20歳未満 b.20代 c.30代 d.40代 e.50代 f.60代 g.70歳以上
4. 職業
a.会社員 b.契約社員 c.会社役員 d.公務員・団体職員 e.公務・団体役員
f.自営業 g.自由業・フリー h.アルバイト、パート i.学生 j.専業主婦
k.無職・家事手伝い l.退職者 m.その他(具体的に)
5. 自宅(あるいは職場)から当美術館まで片道どれくらいの時間をかけていらっしゃいますか。
a.15分以内 b.16~30分 c.31~60分 d.61~90分 e.91分以上(具体的に 分)

なお、ご回答頂いた方の中から、さらに、何名かのグループで詳しくご意見・ご感想を伺いたいとも考えております。お名前と連絡先をご記入いただきました方には、後日、美術館よりご連絡させていただくかもしれません。その際には、趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。この「グループ・インタビュー」にご協力いただいた方々には、美術館より記念品を差し上げます。

お名前

ご連絡先住所

昼間の電話番号

メールアドレス

ご協力ありがとうございました。記入済みのアンケート票は、ホワイエのアンケート・ボックスにお入れ下さい。郵送、ファックス、電子メールでのご回答も承りますが、その際には、本日より1週間以内をお願いいたします。

〒781-8123 高知市高須 353-2 高知県立美術館

電話 088-866-8000, ファックス 088-866-8008 email: museum@tosa.net-kochi.gr.jp

アンケート調査へのご協力をお願い(演劇・ダンス)

2002年7月6日

本日は、美術館主催行事におこしくださしましてありがとうございます。当美術館では、芸術文化の発信基地として益々の充実をはかるため、皆様のご意見をお聞かせいただきたくアンケート調査を行ってまいりました。今年度は、開館後9年を経た美術館活動について、これまでよりも詳細にわたりお伺いし、今後の活動の充実に役立たせていただきたいと思います。ご記入頂きました回答は数値処理され、皆様にご迷惑をおかけするようなことはございませんので、どうぞ調査へのご協力をお願いいたします。

【アンケートご記入の際のお願い】

回答は、ご本人様がお答え下さい。また、ご記入漏れがありませんよう、ご注意をお願いいたします。

問1 当美術館での主催公演(美術展覧会を除く、音楽、舞踊、映画など)には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。該当する答えに1つだけまるをつけて下さい。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上(具体的に 回ぐらい)

問2 美術館での公演のうち、舞踊・ダンス・演劇などの公演には、これまで何回ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 今回が初めて
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上(具体的に 回ぐらい)

問3 あなたは、この美術館以外の場所で催される舞踊・ダンス・演劇などの公演に、年に何回ぐらい行きますか。

- a. 全くない
- b. 年に1～3回程度
- c. 年に4～6回程度
- d. 年に7回以上(具体的に 回ぐらい)

問4 美術館主催公演及び当施設について、以下の項目に満足していますか。各項目について、あなたの意見にもっとも近いものを一つ選び数字にまるをつけて下さい。今回の公演以外にもいらしたことがある方は、演劇、音楽などのジャンルにこだわらずこれまでの経験を総合してお答え下さい。

	非常によい、満足している	ややよい	やや悪い	非常に悪い、強い不満がある
a. 演目（演じられる作品）	1	2	3	4
b. 演奏、上演の質	1	2	3	4
c. ホールの規模	1	2	3	4
d. ホールの音響	1	2	3	4
e. チケットの値段	1	2	3	4
f. 職員の対応、会場の雰囲気	1	2	3	4
g. 美術館へのアクセス	1	2	3	4
h. 美術館内のレストラン	1	2	3	4
i. 美術館内のショップ	1	2	3	4

問5 高知県立美術館に関する次の各文に対して、あなたはどのように思いますか。答えを1～4のうちから一つを選び、番号にまるをつけて下さい。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう は思わない	全くそう は思わない
a. 芸術文化の発信基地として意欲的に事業を行っている	1	2	3	4
b. さまざまな芸術分野を紹介する興味深い場所である	1	2	3	4
c. 実験的・先駆的な活動を紹介する刺激的な場所である	1	2	3	4
d. 生涯学習の場として重要な役割を担っている	1	2	3	4
e. 市民の芸術への創作・参加意欲を刺激する場所である	1	2	3	4
f. 地域の人々に広く親しまれている	1	2	3	4
g. 高知県全体にとっての誇りである	1	2	3	4

問6 これまで高知県立美術館で催されている美術展には何度ぐらいいらしたことがありますか。

- a. 全くない
- b. 2～4回
- c. 5～9回
- d. 10回以上（具体的に 回ぐらい）

問7 問6で b~d とお答えになった方にのみ伺います。美術展部門に関して、あなたは以下の記述に対してどのような意見をお持ちですか。各文に対するあなたの意見にもっとも近い番号にまるをつけて下さい。個々の企画展、常設展により違う意見をお持ちの場合には、総合してお答え下さい。

	そのとおりだ と思う	ややそのとお りだと思う	あまりそうは 思わない	全くそうは思 わない
a. 美術展のテーマは全体に興味深い	1	2	3	4
b. 美術展の内容は全体にわかりやすい	1	2	3	4
c. 美術展は子供も楽しめるものであると思う	1	2	3	4
d. 美術館の建物内部は歩き回っていてわかりやすい	1	2	3	4

問8 今回の公演について何でお知りになりましたか(いくつでも可)。また、複数の回答にまるをつけた方は、その中でももっとも直接的なきっかけとなったものに をつけて下さい。

- a.ポスター b.チラシ c.新聞記事(広告を除く) d.高知新聞広告 e.美術館ニュース f.美術館ホームページ g.テレビニュース h.ラジオ i.雑誌・情報誌 j.知人・友人からきいて k.さん SUN 高知 l.美術館からの案内状 m.その他(具体的に)

問9 今回の公演について、あなたは次のうちのどれにあてはまりますか。

- a. 元々美術館が主催する舞台公演に興味があり、楽しめた
b. 美術館が主催する舞台公演には興味があるが、今日の公演は楽しめなかった
c. 美術館が主催する舞台公演には特に興味がなかったが、今日は楽しめた
d. 美術館が主催する舞台公演には興味がなかったし、今日も楽しめなかった
e. その他(具体的に)

問10 このような公演が当美術館で催されたら、再び来たいと思いますか。

- a. ぜひ来たい
b. 多分来ないであろう
c. その他(具体的に)

問11 今後、当美術館における舞台芸術公演の内容にどのようなことを望みますか。強く望むものを2つまで選び、まるをつけて下さい。

- a. さまざまなジャンル・国の芸術を紹介して欲しい
b. 実験的、先駆的な公演を増やして欲しい
c. 評価の定まった作品・作家の活動を増やして欲しい
d. わかりやすく、誰もが楽しめるような作品を増やして欲しい
d. 高知県民の文化活動を紹介する公演を増やして欲しい
e. その他(具体的に)

問 12 美術館での公演に付随して、あなたは次のような機会があったらよいと思いますか。あなたの意見を表す番号にまるをつけて下さい。

	はい	いいえ
a. 公演に付随した解説の時間、ディスカッションの機会	1	2
b. アーティストや制作者たちと交流する機会	1	2

その他に、このような付随サービスがあったらよい、というものがあれば具体的に書き下下さい。

美術館活動全般について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

最後にあなた自身のことについてお伺いします。

1. 性別 a. 男 b. 女
2. 当美術館の友の会の会員ですか a. 会員 b. 非会員
3. 年齢 a. 20歳未満 b. 20代 c. 30代 d. 40代 e. 50代 f. 60代 g. 70歳以上
4. 職業
a. 会社員 b. 契約社員 c. 会社役員 d. 公務員・団体職員 e. 公務・団体役員
f. 自営業 g. 自由業・フリー h. アルバイト、パート i. 学生 j. 専業主婦
k. 無職・家事手伝い l. 退職者 m. その他（具体的に ）
5. 自宅（あるいは職場）から当美術館まで片道どれくらいの時間をかけていらっしゃいますか。
a. 15分以内 b. 16～30分 c. 31～60分 d. 61～90分 e. 91分以上（具体的に 分）

なお、ご回答頂いた方の中から、さらに、何名かのグループで詳しくご意見・ご感想を伺いたいとも考えております。お名前と連絡先をご記入いただきました方には、後日、美術館よりご連絡させていただくかもしれません。その際には、趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。この「グループ・インタビュー」にご協力いただいた方々には、美術館より記念品を差し上げます。

お名前

ご連絡先住所

昼間の電話番号

メールアドレス

ご協力ありがとうございました。記入済みのアンケート票は、ホワイエのアンケート・ボックスにお入れ下さい。郵送、ファックス、電子メールでのご回答も承りますが、その際には、本日より1週間以内をお願いいたします。

〒781-8123 高知市高須 353-2 高知県立美術館

電話 088-866-8000, ファックス 088-866-8008 email: museum@tosa.net-kochi.gr.jp